

TOSA 国保だより

VOL
322
2015.Apr

Public relations magazine
Tosa Kokuho Dayori
Published by
Kochi National Health
Insurance Organization

人が元気で
四万十町
いきいきしているまちづくり



Contents

- 02 首長は語る
人が元気で
いきいきしているまちづくり
中尾博憲 四万十町長
- 07 いちおしスポット 四万十町
- 09 第28回高知県国保地域医療学会
- 13 おらんくの保健事業 高知市
二つの課が役割分担して進める
生活習慣病予防
- 17 元気散策! ~このまちからの笑顔だより~ 奈半利町
- 20 なでしこの会
第30回「なでしこの会」研修会報告 / 幡多地区連絡会
- 21 国保連合会2月通常総会
- 23 こくほ随想 国民健康保険制度の歴史的な転換点に立って
- 25 連合会の動き
- 27 こちら介護保険課
介護給付費、依然として高い伸び率
—平成26年10月から12月審査分—
- 28 地域のたから ちいキッズ! 土佐町
- 31 コーヒーブレイク
「私の日課」大川村 / 「スマホで世界を救え!」梶原町
- 33 黒い靴 No.256 土佐清水市
『輝く笑顔みんなで子育てできるまち』
- 35 ヘルシーごはん 食べてみいや! 味てみいや!!
「バナナロール」
「イチゴとトマトのスムージー」「もちもちポンデケージョ」
- 37 保険者支援保健事業支援
保険者での国保データベースシステムを活用した
生活習慣病対策支援モデル事業
- 38 国保連合会事務局組織図
- 39 国保連合会事務分担
- 41 国保連合会各室課事業年間予定表
- 43 連合会日誌
- 44 編集後記

TOSA国保だよりは
本会ホームページからも
ご覧いただけます。
<http://www.kochi-kokuhoren.or.jp>

TOSA国保だより 検索



人が元気で
いきいきしている
まちづくり

高知県で最も広く
山と海に囲まれたまち。
最後の清流と称される
四万十川が流れ、
ゆったりとした
時間が流れるまち。
自然が育む
豊かな食材。
文化と歴史が薫り、
自然と人が元気なまち
四万十町を訪ね、
これからのまちづくりについて
中尾町長に伺いました。

四万十町長 中尾博憲 (61歳)

首長は語る

No.71



首長は語る

No.71 四万十町長 中尾博憲

大きなまちならではの取り組み

国保連合会渡辺課長以下、渡辺
まず、四万十町の施設整備の状況や保健師などの人数、活動状況などについてお聞かせください。
中尾博憲(四万十町長以下、中尾町長)
四万十町は広大な面積を持つため、住民の身近な場所である旧町村単位に本庁、十和

地域振興局、大正地域振興局として役場機能を置いています。十和地域には国保十和診療所に併設して十和保健センターがあり、大正地域には国保大正診療所と大正健康管理センターがあり、地域医療と一体になって住民の健康管理を進めてきた経緯があります。窪

川地域では新しくできた本庁東庁舎に乳幼児健診や各種検診、障がい者等のグループ活動が行えるスペースを備え、住民の健康管理の拠点として機能しています。
また、地域包括支援センターを直営しており、本庁以外にも十和・大正地域を担当する西部支所を大正地域振興局に置いています。

保健師は現在11人で、本庁

ニーズを見据えながら支援の充実を図る

渡辺 高齢化対策はいかがでしょうか。
中尾町長 本町は、26年12月末現在で高齢化率が40.2%となり、今後もさらなる高齢化の進行が予測されます。高齢者が住み慣れた地域でできるだけ自立した生活ができるよう、地域包括支援センターを中心に各種業務を進めています。

介護予防事業では、窪川地域は運動教室を各地区に出向いて行い、教室終了後に介護予防の拠点となる運動自主グループ活動や宅老所開所へつなげています。大正・十和地域はトレーニング機器を使

用した教室を実施しています。認知症対策は、認知症の人や介護家族への理解の輪を広げるためのサポーター養成や専門職への研修等を継続して実施しています。

地域支え合いネットワーク事業として、見守りが必要な独居や高齢者世帯等に対し、緊急時連絡先や見守り役等の情報を記載した「安心カード」を配布するとともに、その情報は「見守り台帳」として、区長・民生委員・警察・消防・社協・役場(地域包括支援センター)で共有し、緊急時や災害時の支援ができるように



しています。課題のある個別事例は、関係機関と連携を取りチームケアによる支援を展開しています。
今後も、本町独自の福祉タ

クシー・バス事業、在宅介護手当等の在宅福祉サービスの見直しや低廉な生活支援住宅の整備等、ニーズを見据えながら充実を図っていきます。

子育てしやすいまちをめざして事業を進める

渡辺 少子化対策についてはどのようなことを行っていますか。
中尾町長 子育てと就労が両立できるよう、保育に関する各種サービスに努めています。

多子世帯の子育てに関する経済的負担の軽減を図るため、保育料等の軽減事業を行っています。具体的には、高校生までの子ども3人以上を養育している世帯の保育料を3人目以降無料としています。

県の3歳未満の第3子以降は無料化する事業(補助率2分の1)も活用しています。本町単独で3歳以上の第3子以降も無料化をしています。これらの事業にかかる26年度の費用は2215万1千円(県費480万2千円+町費1734万9千円)と見込んでいます。

町内の保育施設(町立8、

私立3)の全てで、0歳児(生後3カ月~満1歳児)保育を実施できるようにするなど、待機児童が発生しないように最大限の受け入れを行っています。

保育所に未入所の親子を支援する子育て支援センターも設置しており、定期的な親子サークルや育児相談などを実施しています。入所の必要がない家庭でも、必要に応じて保育が受けられる「一時預かり事業」も実施しています。

このように、「子育てしやすいまち」づくりをめざして、27年度から始まる「子ども・子育て支援新制度」に基づく5年を1期とした「四万十町子ども・子育て支援事業計画」を3月に策定し、その事業計画に沿って肅々と子育て環境の充実を進めていきたいと考えています。

分野別に目標を定め、健康増進計画の実現に取り組む

渡辺 健康増進法の施行を受けての取り組みやよさこい健康プラン21など、保健事業への取り組みはいかがでしょうか。
中尾町長 本町の第1期健康増進計画は、22年度からの5カ年計画として策定しており、26年度は第2期計画として計画の四つの柱「食」「運動」「こころ」「健康管理」の分野別に目標を定め、より一層実践的なものとなりました。

健康増進法に基づく健康教育や健康相談、訪問指導、各

種健(検)診などについては、保健師や健(検)診担当が年度計画に基づいて実施していますが、若い世代の各種がん検診の受診率向上が課題です。受診勧奨の方法や休日健(検)診の拡充を検討し、自分の健康は自分で守るという意識の向上を図っていきます。

また、保育所と一部の小学校で実施していた、むし歯予防のフッ素洗口事業を、27年度からは全小・中学校に導入する方向で、教育委員会が主

さまざまな取り組みで受診率の向上をめざす

渡辺 特定健診・特定保健指導への取り組みについてお聞かせください。
中尾町長 四万十町では、20年

4月に第1期「特定健康診査等実施計画」を策定し、生活習慣病の

予防や早期発見・早期治療に取り組んできました。その結果、受診者数は増加し、特定保健指導によりメタボリックシンドローム予備軍・該当者が減少しましたが、計画目標には届いていないため取り組みを見直し、25年度から29年度までを第2期とした計画を策定し、引き続き受診率の向上をめざしています。初年度の受診率は26.2%で、翌年以

降は30%台を推移し、25年度は31.9%と伸び悩んでいます。25年度からは、国保被保険者全員に受診券等を個別送付し、がん検診と併せての周知徹底を図っています。

集団健診は高知県総合保健協会に委託し、5月から12月まで町内各地区を巡回し、がん検診とのセット健診を実施しています。また、11月と12月の日曜日にひろい健診を



合同健診【役場東庁舎】



四万十町役場

実施し、平日は仕事で受診できない方等に對して受診機会を提供しています。新しい取り組みとしては、集団健診後、未受診者に電話での受診勧奨を行い、健診内容の説明や受診の必要性、医療分野の

質問・相談等にも対応し、受診促進につなげることができました。特定保健指導は、動機づけ支援・積極的支援の対象者に結果報告会という形で指導を行っています。対象者の約8割の方に面接での結果説明と生活指導を行い、継続的な指導を希望する方には生活改善の案を一緒に考えて取り組んでいます。特定保健指導の終了率も、初年度は59.6%と高かったのですが年々減少し14.4%まで下がり、25年度は32.5%に何とか持ち上がっています。

また、直営での実施で多忙なため、スタッフの確保が課題になっています。個別健診の対象者には、希望者に利用券を発行し、契約機関での特定保健指導を受けられるようにしましたが希望者はなく、電話相談などでの対応となりました。今後、個別健診受診者の保健指導をどうするかが課題になっています。また、後期高齢者健診受診者にも要医療の指示が出ている方には紹介状を発行し、早期受診をしていただくよう指導しています。

増え続ける介護保険給付費の適正化が大きな課題

渡辺 介護保険の状況はいかがですか。

中尾町長 介護保険制度は12年の創設以来、サービス利用が急速に拡大し、高齢者やその家族を支える仕組みとして必要不可欠な制度となつていきます。

四万十町の介護保険給付費は、20年度の決算額18億5105万円に對し、25年度の決算額は23億3734万円となつており、平均すると毎年約1億円の伸び

となります。併せて介護保険料の負担額も増加しており、この適正化をどう図るかが大きな課題となつていきます。

在宅サービスは、通所介護事業所が町内に11カ所、訪問介護事業所が8カ所あり、施設サービスは、特別養護老人ホームが3カ所、介護老人保健施設が2カ所あります。どちらも受給者1人当たりの介護保険給付費は全国平均よりも多くなつていきます。



四万十川

健全な国保運営をめざして努力を重ねることが必要

渡辺 国保における問題点と課題についてお聞かせください。

中尾町長 四万十町の国保被保険者数は人口の減少に伴い年々減少しています。しかし、65歳以上の前期高齢者数は増加し、被保険者数に占める割合は40%を超え高齢化が進んでいます。

医療の高度化および高齢化に伴い、1人当たりの医療費は年々増加し、25年度の保険給付費は前年度より減少しましたが、26年度の前年同月比は数百万円単位で増加し、財政は非常に厳しい状況が続いています。国保会計は、国保税の収納

四万十川をはじめとする自然が豊かなまち

渡辺 四万十町の特徴ある取り組みについてお聞かせください。

中尾町長 本町を流れる四万十川は、幹川流路延長四国第1位、流域面積四国第2位の大川であり、全長196kmのうち約85kmが町内を流れています。上流に位置する窪川地区

率は職員の努力もあり年々向上していますが、収納額は景気の動向や被保険者の減少などにより減少傾向で、実質的な収支は毎年赤字となっています。国保財政の安定化を考えるにあたり、やむを得ず18年の合併以来、介護給付金分を除いて行っていない国保税率改定を27年度に行いました。

では開放感のある田園地帯を緩やかに蛇行していますが、大正地区と十和地区では穿入蛇行の激しく屈曲した姿を見せます。四万十川には四季を通じて多くの観光客が訪れており、川とそれを囲む自然を満喫していただくとともに、河川沿

国から認められた景観をまちの発展につなげる

渡辺 現在、四万十町で取り組む学術・産業・観光などの地域振興事業や市町村PRなどがあられましたらお聞かせください。

中尾町長 本町には、「図書館」と「美術館」を併設した施設があり、読書に親しむ環境づくりや絵画・書などの収蔵作品展などを定期的に行い、身近で気軽に芸術に触れられる機会を提供することで、住民の誰もが質の高い豊かな文化的生活が営めるよう努めています。

また、本町は21年2月に文化財として価値のある景観「重

てこい四万十なども好評を得ています。春から秋にかけては鮎漁も盛んで多くの太公望が竿を垂らします。また、伝統的漁法の火振り漁（漁期…7月～10月中旬）は写真愛好家にも人気で、毎年、あゆまつりには多くのカメラ



体を動かすことと地域の野菜を中心とした食生活に心掛ける

渡辺 中尾町長ご自身が健康に對して普段から気を付けていることはありますか。

中尾町長 体を動かすことを心掛け筋力を落とさないようにしています。1日に1時間は歩くようにして、予定がないときは雨の日でも歩きます。歩いている時間は自分の時間でもあるので、あいさつなどいろいろなことを考えているとあっという間に1時間が過ぎていきます。食事については、地域の野菜を中心に食べています。

丁寧な対応に感謝するとともに、今後変わるらぬ支援を望む

渡辺 今後、国保連合会に望む事業などありましたらお聞かせください。

中尾町長 国保連合会には、日ごろより国保事業に関わるさまざまな業務に支援をいただき感謝申し上げます。多岐にわたる事務処理が円滑に進んでいるのは、職員の皆さんに丁寧な対応をいただいているおかげです。

今後、制度改正などが予定されていますが、変わらぬご支援・ご協力をよろしくお願ひします。





7 川幅いっぱいに元気に泳ぐこいのぼり こいのぼりの川渡し

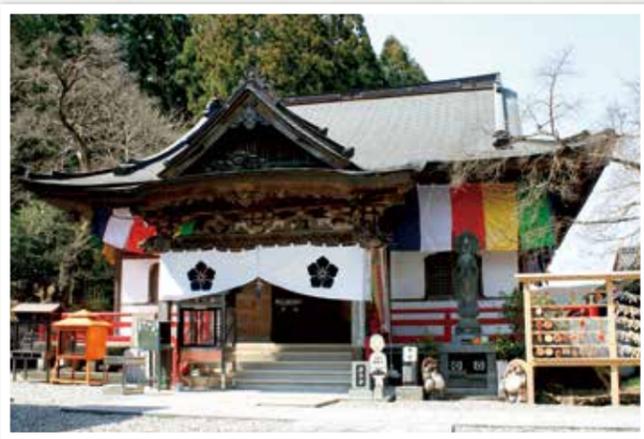
十和地区は日本におけるこいのぼりの川渡しの発祥の地。毎年、4月中旬から5月の中旬にかけて色とりどり約500匹のこいのぼりが四万十川の幅いっぱいに泳ぐ。

4 窪川地区自慢の食材が豊富にそろった道の駅「あぐり窪川」



名前の「あぐり」は、英語で農業を意味するアグリカルチャー (agriculture) から付けられた。四万十町窪川地区自慢の食材が豊富にそろった。中でも、窪川ポークを使いあぐりで加工・販売される「豚まん」は人気の一品。

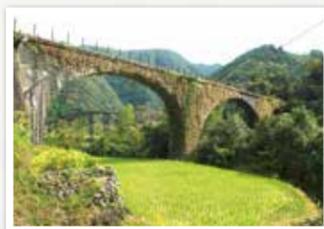
- 営業時間 / 8:00 ~ 20:00 (冬季 19:00 まで)
- 定休日 / 奇数月第3水曜日・3月末日
- お問い合わせ / TEL 0880-22-8848
- URL / <http://www.aguri-kubokawa.co.jp/>



五尊の本尊を祭る四国霊場第37番の札所。弘法大師七不思議伝説「三度栗」「桜貝」「子安桜」「口なし蛭」「筆草」「尻なし貝」「戸たてずの庄屋」が伝えられる。1983 (昭和58) 年に建立された本堂拝殿には、全国アマ・プロによる板絵が天井に575枚飾られ、県内外から多数の参拝者が訪れる。

5 四国霊場第37番札所 岩本寺

正式名称は「佐川橋」といい、1944 (昭和19) 年ごろにトロッコ列車の軌道橋として造られた。県の近代化遺産に登録されている。郷愁を誘う橋筋の優雅な曲線は土地の風景にとけ込み、ノスタルジックな姿を今にとどめている。



6 土地の風景にとけ込む近代化遺産 下津井めがね橋



いちおしスポット

1 四万十川に現存する中で最も古い沈下橋 一斗俵沈下橋

1935 (昭和10) 年に建設され、四万十川に現存する中で最も古く、平成12年12月に国の登録文化財に指定された。夏場は子どもたちにとっての川遊びの場であり、絶好の飛び込みスポットになる。

四万十町

日本最後の清流が
流れるまち

2 山の中で異彩を放つミュージアム 海洋堂ホビー館四万十



廃校になった打井川小学校の体育館を改築し、23年7月にオープン。フィギュアの造形企画製作、販売を行う株式会社海洋堂のプラモデルコレクションや最新フィギュア、有名造型師による恐竜から美少女まで、さまざまなホビーを大量に展示している。

- 営業時間 / 10:00 ~ 18:00 (11月~2月は17:00まで)
- 定休日 / 毎週火曜日 (火曜日が祝日の場合は翌日)
- 12月28日~1月1日 7月4週~8月は無休で会館
- 料金 / 大人800円 小・中学生400円 就学児無料
- お問い合わせ / TEL 0880-29-3355 ■ URL / <http://www.hobbykan.jp/>

3 伝統様式を今に残す 旧都築邸



1901 (明治34) 年、実業家として手腕を發揮した都築半平が建て、随所に土佐の伝統技術を駆使した様式が用いられている。先の大戦後は宿泊施設に改修し「半平旅館」として営業していた。平成20年、四万十町へと寄贈され、同年に文化財の手法で修復された。旧都築邸では、「古民家カフェ半平」を営業している。

- 開館時間 / 8:30 ~ 17:00 (カフェ営業時間 10:00 ~ 16:00)
- お問い合わせ / TEL 050-8807-5075 (古民家カフェ半平)



詳しくは、四万十町商工観光課または四万十町観光協会までお問い合わせください。
● 四万十町商工観光課 TEL 0880-22-3281 URL <http://www.town.shimanto.lg.jp/>
● 四万十町観光協会 TEL 0880-29-6004 URL <http://shimanto-town.net/>



地域の実情に応じた 災害医療を考える

地域包括医療のさらなる発展をめざして

平成27年2月28日、高知県国保地域医療推進協議会と本会との共催により、高知市の高知医療センターにおいて『これからの地域包括医療・ケア—地域を守る災害医療—』をメインテーマに、第28回高知県国保地域医療学会を開催。地域保険としての国民健康保険の理念に則り、地域医療の実践の方途を探求し、相互に研鑽を図ることを目的に、県内の国保直営診療施設等の医師や看護師など、国保関係者176人が参加した。



総合司会
仁淀川町国民健康保険
大崎診療所
所長
沖 勇一
(医師部会副会長)

開会式

学会は、今西芳彦・高知県国保地域医療推進協議会会長（本山町長）の主催者あいさつで開会し、3人の来賓が祝辞を述べた。

主催者あいさつ



高知県国保地域医療推進協議会
会長 今西 芳彦



高知県国民健康保険団体連合会
理事長 塩田 始

来賓祝辞



高知県健康政策部国保指導課
課長 伊藤 博昭氏



全国国民健康保険診療施設協議会
会長 青沼 孝徳氏
(宮城県涌谷町町民医療福祉センター長)



高知医療センター
病院長 武田 明雄氏

の調整は日ごろから非常に大事である。究極のリスクマネジメントとしては、どうしたら津波から逃げられるか。津波は高いところに逃げるのが基本であり、その際に、弱い人をどうやって支えるか。それはつながりや思いやりである。これからの地域包括医療・ケアに求められるのは、総合医の養成と地域包括医療・ケアの推進とその評価ではないかと思う。

研究発表

研究発表では、医師部門から1題、看護部門・技術者部門から各4題の計9題の発表を行った。

【医師部門】

座長



佐川町立高北
国民健康保険病院
院長
和田 幸久

研究発表者

●研究1「ハナと雪の女王」経鼻内視鏡検査導入の試み」



梶原町立
国民健康保険
梶原病院
副院長
藤原 学

優秀研究発表表彰

続いて前回開催の第27回高知県国保地域医療学会における優秀研究者を表彰した。



被表彰者
所長 西村 光太郎氏
四万十市国民健康保険西土佐診療所

優秀研究

「南海トラフ巨大地震に備えて—職員と地域が一丸となって取り組んだ西土佐診療所の防災訓練—」

特別講演

「東日本大震災における涌谷町町民医療福祉センターの取り組みと地域包括医療・ケアの有用性」

全国国民健康保険診療施設協議会
会長 青沼 孝徳氏
(宮城県涌谷町町民医療福祉センター長)



高知県では南海トラフ巨大地震と津波への対策を立てている。これは非常に大事なことだと思う。そこで、私の経験が少しでも役に立てばと思い「涌谷町における地域包括医療・ケアの取り組み」と「東日本大震災における地域包括医療・ケアの有用性」について話したい。



大震災等の災害時、地域包括医療・ケアシステムは大変有用である。地域包括・ケアは地域づくり・まちづくりそのものである。宮城県にある涌谷町は、人口1万7324人、5967の世帯がある（26年3月31日現在）。私が赴任した1987（昭和62）年は、まさに初めての公的な病院を作るところであり、町民とどんな目標を持って作るかをディスカッションした。町民の理想は「涌谷町に住んで良かった、住んでみたい」と思われることだった。そのためには、病院を作るだけではなく、町民が自分の健康に責任を持ち、家族で役割を分かち合い、地域が手を取り合う地域包括・ケアの考え方を持つことが必要と説明し、これを医療センターの基本方針として活動してきた。

医療センターは121床、常勤医師は9人と少ないが、医師が専門性を持ちながら総合的に幅広く診療をするこゝとで上手く動かしている。そういう意味でも、地域で総合医は極めて大事である。医療センターができて10年、地域包括・ケアの取り組みもあり涌谷町の医療費は適正化が図られてきた。地域包括・ケアは介護保険にも大きな影響があり、涌谷町の25年の高齢化率は28.5%、その中で介護認定を受ける人は17.6%。全国の高齢化率は24.1%で介護認定率は17.9%となっている。地域包括・ケアの構築は医療と介護における費用と保険料を適正化し、介護認定率の低下や健康寿命の延伸につながる。そして、その地域包括・ケアの展開には総合医が必要である。

東日本大震災は2011年3月11日に発生、行方不明者を合わせて1万9千人弱の人が亡くなった。停電、通信遮断は154時間、断水は319時間続いた。電気はもともと早く復旧するインフラと聞いていたが、復旧に1週間を要し、電気に依存していることを非常に思い知らされた。飲み水がないのも困るが、電気がないと浄化槽が動かないため下水が流せない、これが非常に困る。感染症の拡大を防ぐためにも公衆衛生は非常に大事である。

震災をとおして感じたのは、リーダーシップは非常に重要で、きちんと地域をコントロールすることが求められる。また、人と人とのつながりやコミュニティ

【看護部門】
座長



四万十町 国民健康保険 仁淀病院 総看護師長 北村 喜美子 (看護部会長)
四万十町 健康福祉課 総括技幹 小野川 恵利 (看護部会副会長)

●研究発表者
研究2 「高知県糖尿病療養指導士認定機構（CDE高知）の設立における幡多地域での普及育成とCDEJの役割」



四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院 看護師 岡上 則子 (CDEJ)

●研究3 「当院における病棟看護師が行う退院支援の現状」



佐川町立高北国民健康保険病院 継続看護担当看護師 岡原 史佳

●研究4 「長期継続している体操教室参加者の体力測定結果の考察について」



大月町 保健介護課 保健師 押川 麻美

●研究5 「災害訓練における緊急参集時の課題」災害マニュアルを使用し



四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院 看護師 澤田 梢

【技術者部門】
座長



本山町立国民健康保険 嶺北中央病院 主任放射線技師 安岡 俊挙 (技術者部会長)



四万十町国民健康保険 大正診療所 診療放射線技師 大川 剛史 (技術者部会副会長)

●研究発表者
研究6 「大正診療所防災活動地域の災害医療の向上」みんなで逃げる、みんなで助かる」



四万十町 国民健康保険 大正診療所 診療放射線技師 大川 剛史

●研究7 「災害を知り災害に挑む」西土佐診療所ならではの訓練は続



四万十市 国民健康保険 西土佐診療所 管理栄養士 篠田 知佐

●研究8 「外部評価を受けて変わった感染症対策」



梶原町立 国民健康保険 梶原病院 臨床検査技師 神明 峰代

●研究9 「国保診療所で「パワーリハ教室」を実施して（第2報）」10年間のまとめ」



四万十町 国民健康保険 大正診療所 理学療法士 長森 誠二

パネルディスカッション

テーマ

『これからの地域包括医療・ケア——地域を守る災害医療——』



座長 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院 院長 佐野 正幸 (医師部会長)
助言者 全国国民健康保険 診療施設協議会 会長 青沼 孝徳氏 (宮城県涌谷町町民医療福祉センター長)

「支えあい、絆でつなぐ安心・安全のまちづくり」高知県の町の取り組み」
高知県吾川郡いの町
いの町は、16年10月に伊野町・吾北村・本川村の3町村が合併して誕生した。地域のひととの交流を一つの小さな拠点としたまちづくりを行っている。
26年3月現在65歳以上の高齢化率は33.01%、2025年には要支援者となる75歳以上の高齢者は5082人になると予測されている。地域福祉計画の中では要支援者への対策を重視し、5年ほど前より要支援者名簿を作成している。その他、障害のある方の緊急時の連絡先や就寝時の場所が把握できる地図も制作するという福祉活動を進めている。



パネリスト

自主防災組織の組織率は97.17%、吾北本川地区では100%となっている。きちんとした組織を立ち上げることが、自助・共助に大きな役割を果たすと考えている。災害時医療救護計画としては、拠点病院である仁淀病院での災害対策を考えることが重要となる。誰もが24時間48時間と続けて診療は不可能なため、医師・看護師のローテーションをしっかりと組んでいくことが必要である。産科婦人科のない町のにとっては、他市町村との連携も考えていかなくてはならない。
ライフラインの整備については、町内の2か所のガソリンスタンドに自家発電装置を設置している。防災ヘリ、ドクターヘリなどのジェット燃料の確保、大量に必要な水を提供するための浄水装置の設置も検討している。
被害を想定した上で予防的整備を行い、災害を未然にあるいは少なく防ぐことができる対策に取り組んでいきたい。

「南海トラフ巨大地震に対する西土佐診療所の取り組み」
山間部の孤立に備えて」
四万十市国民健康保険西土佐診療所 所長 西村 光太郎氏



パネリスト

2011年の東日本大震災以降、西土佐診療所では管理栄養士を先頭に震災に対する

取り組みを始めた。中山間地である西土佐地域は土砂災害や道路の寸断による混乱が予想される。通常であれば、重症患者等は速やかに高次機能病院に搬送されるがそれもままならず、外からの迅速な支援も期待しにくい。また、ライフラインの寸断、施設や職員の被災など、医療需要の増加にかかわらず医療供給に大きな支障を来すことが明白である。
診療所としての備えには、職員の訓練と施設の整備、マニュアルや災害時行動計画の作成などがある。また、想定外の事態に対応できる柔軟性も求められる。最終目標は、住民の被災を少なくして、ある程度自分で対処できること、また傷病者を受け入れる力量を少しでも高めること、搬送が必要な方の対応や被災後の住民の健康管理ができることなどである。
対策の推進役として、診療所職員の中に以前からの1人と、26年度に新規2人の防災士が誕生した。この3人を中心に、全職員一丸となり取り組みを継続していきたいと考えている。

「地元で活動する地域災害支援ナース育成への取り組み」
公益社団法人高知県看護協会 常任理事 秦 菅氏

高知県看護協会（以下、看護協会）は、21年2月27日に県および全市町村と「災害時の医療救護活動に関する協定」を締

パネルディスカッション
テーマ『これからの地域包括医療・ケア——地域を守る災害医療——』
パネルディスカッションでは、『これからの地域包括医療・ケア——地域を守る災害医療——』をテーマに、パネリストが日ごろの取り組みなどについてそれぞれ発表を行い、発表後は活発な議論を繰り広げた。



結し、24年度より「災害看護体制の強化と推進」を重点事業に、人材育成や体制・マニュアルの整備、他職種や地域との連携に取り組んでいる。
災害時は地域資源を活用した「総力戦」が求められることから、25年度に「地域災害支援ナース」の育成研修の実施と登録体制を整えた。地域災害支援ナースとは、主に県内で発生した広域災害において支援活動を行う看護職である。交通状況等により所属機関に着任できない看護職や未就業看護職者が地元や最寄りの救護病院や避難所などに駆け付け、医療支援等に当たる。

育成研修は、被災時の応急対応や被災者の生活支援に必要な知識・技術の習得をめざしている。また、研修場所は海沿いや中山間など県内5カ所で開催し、その地域での災害の特徴や近隣市町村の災害への取り組みについて学び、地元の看護職と情報交換をしている。災害時、すぐに行動できるよう「地域災害ナース活動マニュアル」を作成し、地域災害支援ナースとしてのモチベーションや看護の質の向上をめざして取り組んでいる。
27年1月時点で初回研修受講者489人、継続研修受講者32人、地域災害支援ナース登録者は221人となっている。



パネリスト



土佐が生んだ維新の英雄、坂本龍馬



五台山からの夜景は中・四国の三大夜景に数えられます



二つの課が 役割分担して進める 生活習慣病予防

Vol.71
高知市

高知城は国の重要文化財に指定されています

あり、四国南部のほぼ中央部に位置しています。西方と北方には山岳が巡り、東方には肥沃な美田、南方は浦戸湾を経て太平洋に面します。
南国らしい温暖な気候と豊かな自然に育まれた新鮮な食材の宝庫で、定期的に街路市が開催されており、追手筋から高知城に向かって1.3kmにわたって連なる「日曜日」では朝採れの野菜や干物、たくさんの笑顔と出会えます。

手探りで生活習慣病予防・重症化予防対策を行う

市には保健所があり、保健事業は多岐にわたっています。今回はその中でも生活習慣病予防についての保健事業を報告します。

20年度に特定健診が開始されて以降、本市では国保部門である保険医療課が特定健診を、健康増進課（旧・健康づくり課）が保健指導を担当しており、歴代の担当者は健診受診率の低さや特定保健指導の利用率の低さに悩んできました。本市の国保の1人当たり医療費は、24年度の36万2千円から25年度は37万3千円へと増加しており、今後も増加していく見込みです。また、24年度に健康づくり計画を作

黒潮踊る雄大な太平洋と緑豊かな山々に囲まれた県都

高知市は、1889（明治22）年4月、近郊の49市町村を合わせて市制を施行し、以降数度の合併を行いました。17年1月には土佐山村・鏡村と、20年1月には春野町と合併し現在の姿となりました。
黒潮踊る雄大な太平洋と緑豊かな山々に囲まれた人口約34万人の県都で

の中で、高知市の50〜60歳代の男性は心疾患や脳血管疾患、腎不全で死亡する割合が全国に比べて高いということが分かり、重点施策として生活習慣病予防の取り組みを開始し、兵庫県尼崎市や山口県下関市へ先進地視察に行きました。

25年9月に「専門職の仕事術〜健診から始まる健康づくり〜」と題する研修会があり、国保部門と保健衛生部門が一緒に参加しました。その際、講師の方が「連携ではなく役割分担が大事」と説明していました。今振り返れば、このときが生活習慣病対策が医療費や介護給付費の適正化につながることを部署や職種の異なる職員同士で共有するきっかけになったと思います。11月には、保険医療課の事務職と健康づくり課の保健師、管理栄養士が新潟県上越市を視察し、健診結果説明会の見学や担当者との情報交換をしました。

視察先では、要介護状態に至る理由を分析し、生活習慣病の重症化予防に役立てていました。そこで、高知市でも理由を分析してみると、要介護度が重度になるほど脳血管疾患で認定を受ける者の割合が高く、年代が若くなるほど脳血管疾患で認定を受ける割合が高いことが明らかになりました。

おらんく ORANKU NO HOKENJIGYO の 保健事業



高知市保険医療課・健康増進課のみなさん



面積 308.99 km²
人口 337,412人
国保被保険者数 79,212人
高齢化率 26.7%
(平成26年12月末現在)



九反田堀川沿いの桜並木は市内でも屈指のお花見スポットです



日曜市では、にぎやかな土佐弁が飛び交います

健診風景



KDBシステムのデータ等を用いて、健診・医療・介護について分析しました



健診会場の食生活改善推進委員のコーナー、野菜の重さ当てクイズや料理の試食は大好評です



個別保健指導では、一人一人の生活習慣を把握し改善の支援をします



参加者の生活習慣の特徴を盛り込んだ内容になるよう心掛けています



高知市の現状を知るために、話し合いを重ねました

二つの課で役割分担をし、生活習慣病予防・重症化予防を推進

26年度、機構改革により保険医療課に保健師が配置され、生活習慣病対策や医療費適正化に向けて専門職が専従できる体制になりました。また、健康増進課の管理栄養士と保健師の各1人が保険医療課の兼務職員となりました。両課は、毎月の定例会の他にも、常に情報共有をしながら業務に取り組みんでいます。

特定健診・保健指導事業は、職員それぞれが使命感と責任感を持って取り組むことで効果的に進めていくことができると思います。

新たな事業、40歳代健診・結果説明会に取り組み

26年度、特定健診受診率が特に低い若い世代が継続して健診を受診するきっかけを作ることを目的に、40〜45歳の方を対象に、特定健診とがん検診をセットにした集団健診と健診結果説明会を実施しました。これまでの健診では、特定保健指導対象者の割合は全体の15%程度でしたが、今回の受診者

(40〜45歳)では40%の人が保健指導対象者となりました。

初めて健診を受診した40歳のAさんは尿糖+でした。健診当日の保健指導で生活習慣の話の伺い、推測される血管の状態を説明すると、本人は危機感を感じ、その日から野菜の摂取量を増やし飲酒をやめられたそうです。後日の個別保健指導では、健診結果についても生活習慣における改善点を一緒に説明し、医療機関の受診を勧めるとともに生活習慣における改善点を一緒に考えました。その結果、医療機関を受診し、栄養指導も受ける予定となり、早期治療につながりました。

高知市の生活習慣病にかかる課題とこれからの保健事業

26年度からは国保データベース(KDB)システム等を活用した現状分析およびデータヘルス計画の策定にも取り組んでいます。これは、国保連合会に支援をいただきながらKDBシステム等を活用し、高知市の生活習慣病に

関する保健事業へと展開するものです。国立保健医療科学院の横山先生や国保連合会の保健師の指導により徐々に現状分析が進んできました。

このモデル事業で、三つの現状と課題が明らかになりました。

①生活習慣病の発症予防

特定健診の問診と健診データをクロス分析した結果、早食いが肥満の過剰発生につながっていること、肥満と多量飲酒が高血圧症の過剰発生につながっていること等の特徴が分かりました。また、これらの関係は若い世代ほど影響が大きいことも分かりました。

これらのことから、高知市の生活習慣病に対するポピュレーションアプローチ(※)の一つとして、早食いの改善による肥満予防および適正飲酒による高血圧症の予防に向けた取り組みを重点的に進めていきます。

②生活習慣病の重症化予防

レセプトに虚血性心疾患がある40〜69歳の人を分析した結果、約3割の人は虚血性心疾患の発症前に高血圧症や脂質異常症等の生活習慣病の治療歴がないことが分かりました。このため、特定健診の結果で、血圧や血糖・腎機能で医療機関の受診が必要な人を対象とした保健指導を重点的に実施してい

きます。また、生活習慣病は自覚症状がないまま重症化してしまうため、特定健診を受診することが重要であることを啓発し、健診受診率向上対策に取り組みます。

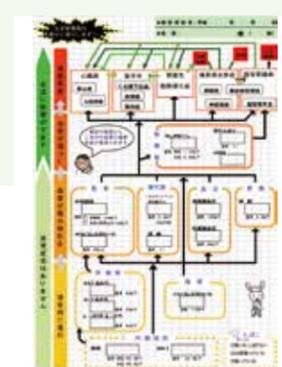
③他保険との連携

レセプトに脳卒中(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)がある人で介護認定を受けている人を分析すると、初回の介護認定時に被用者保険に加入している人が4割以上いました。

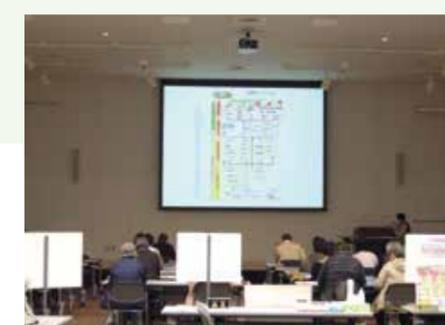
これらのことから、被用者保険と協働し、行政(地域保健)の役割を明確にして保健事業に取り組んでいくことが必要です。

継続した健康づくりができる環境の整備が重要

生活習慣病予防を進めていくためには、市民が継続して健康づくりを実践できる環境を整えていくことが重要です。26年度末から「高知市生活習慣病予防に関する協議会」を設置し、関係者とともに高知市の現状、課題を共有し、具体的なアイデアを出し合いながら、一人一人の市民が自分に合った健康づくりができるよう、取り組みも進めていきます。



健診結果を基に一人一人の構造図を作成します



構造図を用いて検査値から推測される血管の状態について説明します



後期高齢者には、低栄養状態や介護予防について説明します



国保連合会の支援のもとデータ分析を進めました



国立保健医療科学院の横山先生の指導を受け、生活習慣病に係る課題が明確になりました

※ポピュレーションアプローチ
集団全体を対象にアプローチし、全体として疾患発生のリスクを下げていく手法。これに対し、疾患を発生しやすい高いリスクを持った人を対象に絞り対処していく手法を「ハイリスクアプローチ」という。



製作途中の畳。畳作りには正確な技術が必要とされる。



匠の技術を守り続ける大寺秀人さん



このまちからの笑顔だより
元氣散策!

元氣散策!
このまちからの笑顔だより
奈半利町

「自分が納得できるものを」

お客さんに

気持ち良く使って

もらえるように



NAHARI TOWN

北東に野根山を望み、起伏に富んだランドスケープ
海と山に囲まれ、見渡す限りの大自然郷。
美しい太平洋と数々の滝、点在する旧跡や寺院
由緒ある民家や町並み
自然と歴史が美しく
融合するまち奈半利町であたたかい笑顔に出会いました。



奈半利町で三代続く畳屋を訪ねる

奈半利町は、高知市から東へ約50km、県東部に位置する。温暖な気候に恵まれ、施設園芸が盛んなまちでは、高品質なナスやスイカなどが多く生産されている。日本有数の木材のまちとして発展を遂げ、現在は林業の近代化に取り組んでいる。

14年7月に開通した、土佐くろしお鉄道「ごめん・なはり線」の終・始発駅に当たり、近年はシーカヤックやシュノーケリングなどのマリンスポーツ施設が整

備され、離岸堤では、群生した美しいサンゴを鑑賞するサンゴウォッチングが楽しめる。

その奈半利町において、大寺畳店を営み、3代目となる大寺秀人さんを訪ねた。確かな技術と気遣いが込められた畳

くつはならない。現在、畳を作るに当たっては、ほとんどの工程は機械を用いて作られるが、一つ一つの工程の意味を知った上で作られる大寺さんの畳は、確かな技術と知識に裏打ちされたものであり、使う人への気遣いが込められている。

日本で生まれた「畳」の文化

大寺畳店は、大寺さんの祖父が奈半利町で始めたもので、現在は大寺さんが一人で切り盛りしている。

畳製作の技術は父親の故・康雄さんから受け継いだ。身近にあった畳作りとはいえ、自分の仕事にするとなると訳が違う。高校卒業してすぐにこの道に入り、父親の仕事をそばで見て習い、技術を身に着けた。

大寺さんは畳製作一級技士の認定を受けている。これは実技・学科試験を通して認められた技術者に与えられる国家資格で、一級が最高位に当たる。その実技試験においては、限られた時間の中で畳製作の全ての工程を手縫いで仕上げな

日本文化となっているものも多くは、中国大陸から入ってきたものが大半を占めるが、畳は日本で生まれた。現存するものとも古い畳は奈良時代のもと言われ、「御床畳」という木製の台の上に置かれたものが奈良県東大寺の正倉院に保管されているが、現在の畳とは少し異なる。

四季折々の表情を見せる日本の気候に合わせて進歩を遂げてきた畳。畳に使用されるイグサには吸湿効果があり、リラックス効果があるといわれるが、何より日本で産声を上げたものだ

からこそ、われわれ日本人は畳のある部屋にいと落ち着くのではないだろうか。

地域で異なる畳の特徴

畳は畳床と畳表、畳縁から構成されている。畳床には稲わらを使用していたが、現在は発泡スチロールを使用しているものが多く、その方が軽くて金額も少し抑えることができる。

畳のサイズは地方によってそれぞれ異なり、呼び方も違う。江戸間は88・0cm×176・0cmとなり、中京間は91・0cm×182・0cmで愛知県や岐阜県等で使用され



使い込まれた作業道具



気遣い込めて作業に取り組む大寺さん

出し惜しみなく 力を発揮して、 畳や部屋を仕上げる

高知県で使用される京間は本間間や関西間とも言われ、近畿や中・四国、九州で使用され、サイズも一番大きく95・5cm×191・0cmになる。

特に高知県の畳には特徴があり、半畳の畳を作らずに7分の畳を用いる。4畳半の部屋であれば、1畳の畳3枚と7分の畳2枚を用いて4畳半を仕上げる。

大寺さんは主に九州産のイグサを使っているが、最近では、高知県産のイグサ

畳を手入れするにあたり、大事なことは掃除をこまめにする。掃除機をかけるだけでなく、特に新しい畳はカビが出やすいため、気にかけてほしいそうだ。

また、畳はその部屋に合わせた寸法で作られ、敷き方も決まっているため、畳

を使用した畳表「土佐表・龍馬」を売り始めている。

畳の手入れで大事なことはこまめな掃除

を上げたことによって元に戻せなくなった場合は気軽に声を掛けてほしいとのこと。それが他の畳屋が仕上げた部屋であっても、同業者ならではの知識で元に戻すことも可能だそうだ。

日本の誇る文化と匠の技術を守り続けてほしい

日本人の畳離れにより、畳に携わる業者は減少しており、高知県も例外ではない。しかし、畳の文化は日本で生まれたものであり、日本のさまざまな伝統文化を語るにおいても欠かすことのできない部分ではないかと思う。近年では、畳の持つリラックス効果なども注目されている。日本の誇る文化である畳がこれからも続いていくよう、匠の技術を守り続けてほしい。



高知県産ブランド「土佐表・龍馬」



●お問い合わせ
「大寺畳店」
高知県安芸郡
奈半利町乙1764番地
電話/0887-38-4827

訪ねた元気人
おとてら ひでひと
大寺 秀人さん



高知県在宅保健活動者
なでしこの会

スローガン

会員の力を結集し
楽しく進めよう地域の健康づくり

○第30回「なでしこの会」研修会報告

26年度第2回目となる研修会を、1月15日に高知市の市町村共済会館において開催し、会員21人が参加しました。初めに、国保連合会大藤事務局長から「最近の国保情勢/国保等の医療費・介護給付費等の動向」について話題提供があり、高知大学医学部家庭医療学講座、阿波谷敏英教授の「これからの地域医療ー高知県における地域包括ケアの現状と課題ー」の講演の後、なでしこの会の活動状況や課題の報告を行いました。阿波谷教授は、高齢化と人口減少社会、多死社会と終末期医療、地域包括ケアシステム、医学生の人材育成について、高知県の現状や課題、高知県の将来の姿等を詳しく説明され、参加者一同、日ごろの健康の維持増進の大切さを自分のこととして再認識し、自分の健康づくりと併せて、会員活動としてできる取り組みを考える機会になりました。



○幡多地区連絡会

27年3月25日に四万十市の新ロイヤルホテル四万十において、幡多地区連絡会を開催しました。この連絡会ではなでしこの会活動の充実を目的に、幡多地域の会員との情報交換や、遠隔地のため参加が難しい研修会等の伝達を実施しています。現在、幡多地区には、17人(保健師11人・栄養士2人・看護師4人)の会員がいますが、当日加入した新会員も含め、8人の参加があり、秋田会長から第30回研修会の伝達、事務局からは、なでしこの会活動について現状や課題について報告し、幡多地区会員からは、「なかなか高知市までは行けないので、年に1回はぜひ、連絡会を実施してほしい。こちらでも、できることがあれば協力したい。」との意見もいただき充実した連絡会となりました。



■会員状況
(H 27.3月末現在)
会員数：88人
保健師：66
看護師：8
准看護師：1
管理栄養士：7
栄養士：4
歯科衛生士：1
理学療法士：1



保険者ならびに県民から信頼される 国保連合会をめざす

新年度事業計画・予算を原案どおり認定・可決

本会では、平成27年度事業計画および予算を定める「2月通常総会」を2月27日、高知市の高知共済会館で開催。26会員の出席のもと、報告事項6件および審議事項53議案などを厳正に審議し、原案どおり認定・可決した。

保険者支援を強化し、負託にこたえるよう努力していく

開会のあいさつでは、塩田 始 理事長（いの町立仁淀病院）は厚生労働省が国保保険者の都道府県単位数を30年度からとする方針を決定したことについて触れ、社会保障と税の一体改革での保険者支援制度として1700億円、高齢者医療における後期高齢者支援金の総報酬割の実施に伴い生じる1700億円、総額3400億円の公費投入を行い国保の構造的な問題解消を図ること、財政安定化基金の創設に向けて27年度は200億円を措置することが進められていることを説明した。



高知県国民健康保険団体連合会 理事長 塩田 始

迎えるに当たり、各保険者には医療費適正化に向けたさらなる取り組みが求められ、その取り組みにおいて、国保連合会が果たす役割は今まで以上に重要になると述べた。

次に、県が取り組む「日本一の健康長寿県構想」について説明し、毎年行う見直しにおいて、今回は、「これまでの取り組みの成果や課題を検証し構想の実現をめざす」と語った。また、前述の医療保険制度改革への対応をはじめとするこれらの取り組みにおいて、市町村や国保連合会、医療機関等関係者との連携が必要不可欠であると訴え、より一層の協力を呼び掛けた。



高知県健康政策部 副部長 弘田 均 氏

全議案を原案どおり認定・可決

本会議では、議長に戸梶眞幸・日高村長を選出し、議事録署名人に法光院晶一・香美市長と竹内強・芸西村長、池田洋光・中土佐町長を指名。報告事項6件と審議事項53議案を厳正に審議し、全議案を原案どおり認定・可決した。



議長 日高村長 戸梶 眞幸 氏

関係機関が連携を密にして 取り組むことが重要

来賓のあいさつでは、高知県健康政策部の弘田均副部長が演台に立ち、医療保険制度が大きな変革の時期を

受賞おめでとう(ご)ございます 国民健康保険事業功労者理事長表彰

本会議前には、平成26年度国民健康保険事業功労者理事長表彰を行い、被表彰者に対し、塩田始理事長から表彰状と記念品が授与された。

（被表彰者） 敬称略

藤原 一紫（南国市）
（在職15年以上）

濱田 江利子・下元 里織
（在職20年以上）

宮脇 好・安岡 友貴
川村 寿美子・山本 富貴
（いの町立仁淀病院）

国保審査委員会委員

大串 文隆・小林 道也
（在職10年以上）



代表して謝辞を述べる藤原一紫氏

1 報告事項

- 報告第1号 会務報告書 平成26年7月23日～平成27年2月19日）
中間監査報告書
- 報告第2号 事務所建設検討委員会報告
- 報告第3号 平成26年度診療報酬等審査支払特別会計（審査勘定）歳入歳出補正予算（第1号）理事専決処分報告
- 報告第4号 平成26年度診療報酬等審査支払特別会計（審査勘定）歳入歳出補正予算（第2号）理事専決処分報告
- 報告第5号 平成26年度診療報酬等審査支払特別会計（審査勘定）歳入歳出補正予算（第3号）理事専決処分報告
- 報告第6号 平成26年度国民健康保険等損害賠償請求事務共同処理特別会計歳入歳出補正予算（第1号）理事専決処分報告

2 審議事項

- 議案第1号 高知県国民健康保険団体連合会事務局組織規則の一部を改正する規則議案
- 議案第2号 高知県国民健康保険団体連合会保険者等事務電子計算共同処理規則の一部を改正する規則議案
- 議案第3号 高知県国民健康保険団体連合会職員の育児休業等に関する規則の一部を改正する規則議案
- 議案第4号 高知県国民健康保険団体連合会職員給与規則の一部を改正する規則議案
- 議案第5号 高知県国民健康保険団体連合会診療報酬審査支払規則の一部を改正する規則議案
- 議案第6号 高知県国民健康保険団体連合会診療報酬等審査支払特別会計経理規則の一部を改正する規則議案
- 議案第7号 積立金の処分議案
- 議案第8号 平成26年度一般会計歳入歳出補正予算第1号
- 議案第9号 平成26年度診療報酬等審査支払特別会計（審査勘定）歳入歳出補正予算（第3号）
- 議案第10号 平成26年度診療報酬等審査支払特別会計（公費支払勘定）歳入歳出補正予算第1号
- 議案第11号 平成26年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計（業務勘定）歳入歳出補正予算第1号
- 議案第12号 平成26年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計（公費支払勘定）歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第13号 平成26年度保険者等事務電子計算共同処理特別会計歳入歳出補正予算（第1号）

- 議案第14号 平成26年度保険財政共同安定化事業高額の医療費共同事業特別会計歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第15号 平成26年度介護保険事業関係業務特別会計（業務勘定）歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第16号 平成26年度介護保険事業関係業務特別会計（介護公費支払勘定）歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第17号 平成26年度障害者総合支援法関係業務等特別会計（業務勘定）歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第18号 平成26年度国保高齢者医療制度円滑導入基金事業特別会計歳入歳出補正予算（第2号）
- 議案第19号 平成26年度特定健康診査特定保健指導等事業特別会計（業務勘定）歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第20号 平成26年度事務所建設事業特別会計歳入歳出補正予算（第1号）
- 議案第21号 高知県国民健康保険団体連合会職員の厚生資金貸付に関する規則を廃止する規則議案
- 議案第22号 高知県国民健康保険団体連合会準備金積立規則を廃止する規則議案
- 議案第23号 高知県国民健康保険団体連合会国保総合システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第24号 高知県国民健康保険団体連合会後期高齢者医療請求支払システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第25号 高知県国民健康保険団体連合会保険者事務支援システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第26号 高知県国民健康保険団体連合会介護保険システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第27号 高知県国民健康保険団体連合会職員退職手当積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第28号 高知県国民健康保険団体連合会障害介護給付費支払システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第29号 高知県国民健康保険団体連合会特定健診等ケア管理システム積立金規則を廃止する規則議案
- 議案第30号 平成27年度事業計画制定議案
- 議案第31号 平成27年度一般会計歳入歳出予算
- 議案第32号 平成27年度診療報酬等審査支払特別会計（審査勘定）歳入歳出予算
- 議案第33号 平成27年度診療報酬等審査支払特別会計（国民健康保険診療報酬支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第34号 平成27年度診療報酬等審査支払特別会計

- 議案第35号 （公費負担医療に関する診療報酬支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第36号 平成27年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
- 議案第37号 平成27年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計（後期高齢者医療診療報酬支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第38号 平成27年度後期高齢者医療事業関係業務特別会計（公費負担医療に関する診療報酬支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第39号 平成27年度運営資金特別会計歳入歳出予算
- 議案第40号 平成27年度国民健康保険等損害賠償請求事務共同処理特別会計歳入歳出予算
- 議案第41号 平成27年度介護保険事業関係業務特別会計（介護給付費等支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第42号 平成27年度介護保険事業関係業務特別会計（介護給付費等支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第43号 平成27年度職員退職手当特別会計歳入歳出予算
- 議案第44号 平成27年度介護保険事業関係業務特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
- 議案第45号 平成27年度介護保険事業関係業務特別会計（介護給付費等支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第46号 平成27年度介護保険事業関係業務特別会計（公費負担医療等に関する報酬等支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第47号 平成27年度障害者総合支援法関係業務等特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
- 議案第48号 平成27年度障害者総合支援法関係業務等特別会計（障害者給付費支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第49号 平成27年度障害者総合支援法関係業務等特別会計（障害者給付費支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第50号 平成27年度国保高齢者医療制度円滑導入基金事業特別会計歳入歳出予算
- 議案第51号 平成27年度特定健康診査特定保健指導等事業特別会計（業務勘定）歳入歳出予算
- 議案第52号 平成27年度特定健康診査特定保健指導等事業特別会計（特定健診特定保健指導等費用支払勘定）歳入歳出予算
- 議案第53号 平成27年度特定健康診査特定保健指導等事業特別会計（後期高齢者健診等費用支払勘定）歳入歳出予算



国民健康保険制度の歴史的な転換点に立って

中村 秀一
Syuichi Nakamura

財政健全化において最重要課題とされる社会保障の抑制

2014年11月の安倍首相の決断により、消費税の10%への引き上げは1年半先送りされた。他方、2020年度までにプライマリーバランスを黒字にするという財政健全化目標の達成は堅持するとされている。そして、その道筋は15年の夏までに明らかにすると、先の総選挙で公約されている。

国民皆保険制度を支える国民健康保険

政府の社会保障給付費の将来推計によれば、2025年度までに社会保障給付費は1・36倍となるが、分野別に見ると、年金の伸びは鈍化（1・12倍）し、医療と介護は伸びが大きい（それぞれ1・54倍、2・34倍）とされる。社会保障の抑制の立場からは、医療と介護が中心課題となる。

れた社会保障と税の一体改革の枠組みの下で、社会保障改革が進行中だ。12年8月に成立した社会保障制度改革推進法第6条においては、医療保険制度改革の基本方針として皆保険の維持が規定されている。皆保険についての国民の支持は大きく、それを否定する議論はほとんどないし、その維持をうたわない政党はない。皆保険の維持は国民的コンセンサスといつてよい。

このような状況の中で、消費税10%からさらに先の姿を描く必要があるとの声が上がるとともに、財政健全化の達成のためには社会保障の抑制こそが本丸だとの指摘が各

法の規定に従って14年には医療介護総合確保推進法の成立を見た。15年は医療保険制度の改正の年とされる。

1961年以来的大改革を迎える国保制度

しかしながら、国保のこの半世紀余りにわたる歩みは苦難の連続であった。60年代、70年代には高度経済成長による産業構造の変化の直撃を受け、国保の被保険者である農民人口が激減した。本格的な高齢社会となった90年代以降は無職者（年金受給者）が増加した。加えて、近年の非正規雇用の増大などが国保の被保険者の低所得化と高齢化を招き、その財政基盤は大きく揺らいできた。追い打ちをかけるかのように少子化、社会移動による地域の人口減が加わっている。

2月20日の社会保障審議会医療保険部会に「持続可能な医療保険制度を構築するための国民健康保険法等の一部を改正する法律案」が示された。法律名が示すように国保の財政の安定化が法改正の中心となつている。18年度から都道府県が財政運営の責任主体となり、国保運営に中心的な役割を担い、制度の安定化を図るものだ。1961年の皆保険は、国保の被保険者を市町村とし、その実施を義務化して達成した。以来、半世紀以上が経過したが、今回の改正は61年以来的の大改革だ。

皆保険維持に向けた改革の実現を期待する

都道府県が財政運営を引き受けるためには、公費拡充による財政基盤の強化が不可欠

である。国は、14年度に実施した低所得者向けの保険料軽減措置の拡充（約500億円）に加え、毎年約3400億円の財政支援の拡充等を実施することとした。この公費3400億円は、現在の国保の保険料の総額（約3兆円）の1割を超える規模であり、被保険者1人当たり約1万円の財政改善効果があるとされる。地域住民と身近な関係にある市町村は、引き続き重要な役割を果たさなければならぬ。資格管理、保険給付、保険料率の決定、賦課・徴収、保健事業など、地域におけるきめ細かい事業を担うのである。



中村 秀一 Syuichi Nakamura

Writer's Profile

一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長 / 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授 / 同大学院国際医療福祉総合研究所長

東京大学法学部卒業。1973年厚生省（現厚生労働省）入省（社会局老人福祉課配属）。1981～84年在スウェーデン日本国大使館勤務。1984～86年厚生省保険局医療課課長補佐（診療報酬改定に従事）。1987～89年北海道庁出向（水産部国際漁業課長、漁政課長）。1990年～厚生省で老人福祉課長、年金課長、保険局企画課長、大臣官房政策課長などを経る。2001年1月厚生労働省大臣官房審議官（医療保険、医政担当）。2002年8月厚生労働省老健局長。2005年8月～08年7月厚生労働省社会・援護局長。2008年9月～10年9月社会保険診療報酬支払基金理事長。2010年10月～14年2月内閣官房社会保障改革担当室長（2012年10月～13年8月社会保障制度改革国民会議事務局長兼任）。2012年1月～一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム理事長。2012年4月～国際医療福祉大学大学院教授（医療福祉学研究科）。2013年4月～同大学院国際医療福祉総合研究所長。

外部有識者による保健事業支援を開始
保健事業支援・評価委員会



保険者全体に対する健康づくりの働きかけが求められている。このような保険者での取り組みを支援するため、「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業」として全国の国保連合会に「保健事業支援・評価委員会」が設置された。「国保・後期高齢者ヘルスサポート事業ガイドライン」に沿った保健事業支援を目的とし、希望保険者には、データヘルス計画等の策定および計画実施過程に関する助言、保健事業の評価をしていくことが委員会の役割となっている。

本会では1月29日、高知市の共済会館において「第1回保健事業支援・評価委員会」を開催し、委員5人、支援対象保険者の担当者4人が出席した。

近年、レセプト等の電子化の進展や国保データベースシステムの整備が進んでいる。国は全保険者に対し、被保険者の健康保持・増進のための事業計画として「データヘルス計画」の策定を進めている。それに伴い保険者には、データ活用による被保険者のリスク別に応じた保健事業の展開や、被

今回が初開催となる委員会では、初めに、主催者を代表して本会の大野政彦・常務理事があいさつに立ち、その後、事務局より委員長・副委員長の選任、委員会の設置及び運営について説明した。続いて、安芸市から「データヘルス計画」について、梶原町から個別保健事業についての報告を受け、委員による助言が行われた。

27年度については、概ね4回の開催を予定しており、データヘルス計画の策定・実施を支援していくことで、被保険者の健康保持・増進を図っていく。

高知県保険者協議会
保険者が果たすべき役割について意見交換
第17回調査研究部会・第16回保健活動部会合同専門部会



3月5日、高知市の共済会館において「第17回調査研究部会・第16回保健活動部会合同専門部会」を開催。両部会の委員20人、オブザーバーとして県健康政策部国保指導課・後期高齢者医療広域連合事業課から合わせて4人が出席した。

医療法等の改正により、県が医療計画を作成するときには保険者協議会の意見を聞くことになる。保険者が医療計画や医療構想の策定の場で意見提出する際には、医療費や健診結果等を分析し、データを元に保険者の垣根を越えてともに考えていくことが必要となる。今回の合同専門部会では、まず保険者に期待されている役割を改めて知り、実際に行われている予防活動の状況を共有し、課題解決策を模索する一つの機会となった。

初めに、事務局よりこれまでの事業経過を報告した後、県健康政策部医療政策課主幹の伴正海氏より「保険者の役割について考えてみた」地域医療構想についてですか？」と題して、情報提供があった。

次に、グループワークでは、3グループに分かれてデータヘルス計画・保健事業を中心に情報交換を行い、グループ発表者が集約を報告した。各保険者で課題はそれぞれあるが、被保険者の健康のために情報を共有し、データを分析することが必要だという共通認識ができた。保険者同士のさらなる連携が期待される。



高知県国保連合会からのお知らせ

平成27年4月1日から
国民健康保険被保険者証が
変わります!!

青色
茶色
桃色

受診のときは国保被保険者証を必ず提出してください!

高知県内各市町村・高知県医師国民健康保険組合
高知県健康政策部国保指導課・高知県国民健康保険団体連合会

平成27年4月1日から
国民健康保険被保険者証が変わります

国民健康保険被保険者証（市町村国保）…青色
国民健康保険退職被保険者証……………茶色
※医師国保組合被保険者証（桃色）は変更ありません

平成27年度用ポスターの背景には四国カルストの写真を使用しています。

四国カルスト
四国カルストは、高知県と愛媛県にかけて広がる高原台地で、大野ヶ原、姫鶴平、五段高原、天狗高原の四つの高原から形成されており、山口県の秋吉台、福岡県の平尾台と並ぶ日本三大カルストの一つである。天狗高原には高知県で唯一のスキー場があり、高山植物や紅葉、雪景色など四季を通じて様々な自然が楽しめる観光スポットとなっている。

窓口でのご確認をお願いします



国保連合会に新しい仲間が増えました。
よろしくお願いたします。
本会では、平成27年4月1日付けで職員2人を採用しました。



にしむら まみ
西村 麻美

担当課・係／電算業務課業務係
年齢／22歳 血液型／B型 趣味／旅行
私の健康法／運動して、よく寝ることです。
座右の銘／継続は力なり
抱負／初めてのことばかりでご迷惑をお掛けすることもあるかもしれませんが、精いっぱい頑張っていきたいと思えます。よろしくお願いたします。



やすなみ りさ
安並 理紗

担当課・係／審査課第1係
年齢／24歳 血液型／A型 趣味／旅行と散歩です。
私の健康法／早寝早起きと栄養のことを考えながら自炊することです。
座右の銘／千里の道も一歩から
抱負／初めてのことばかりでご迷惑をお掛けしますが、国保連合会の一員として早く皆さまのお役に立てるよう日々努力していきたいと思えます。皆さま、どうぞよろしくお願いたします。



保育園の統合をきっかけに 生まれたポッポ広場

土佐町子育て支援センター「ポッポ広場」は、18年4月、三つの保育園を一園に統合したことに併せて、子育て支援策の一つとして新しく開設されました。ポッポ広場では、未入園児の親子を対象に気楽に遊べる場所の提供と、いろいろな遊びを一緒に楽しむことを通して、親子のふれあいや子ども同士、保護者同士のつながりや遊びの輪を広げることに取り組んで

います。また、子育てについて気軽に相談できる場づくりを行うとともに、関係機関と連携し、子育てに関する情報の提供や学習会を開催しています。ポッポ広場は土佐町教育委員会が管理・運営をしており、土佐町で成長していく子どもたちが中学校を卒業するまで、一貫して支援できる体制が整っています。



地域の「たから」 ちいキッズ!

わがまちの子育て支援 (Vol.12)

土佐町子育て支援センター「ポッポ広場」—土佐町—

子育て中のお母さん、一人で悩んでいませんか。
ポッポ広場に遊びに来ませんか。
一緒に子育てをする仲間がいます。

「お母さんたちの居場所づくり」

こちら
介護保険課



介護給付費、 依然として高い伸び率

—平成26年10月から12月審査分—

26年10月から12月審査分の介護給付費明細書の確定件数は月平均8万1208件、対前年度比3.02%の増、給付費については月平均55億6245万円、対前年度比1.07%の増となっています。
給付費の内訳は、施設介護サービスが占める割合は43.76%、地域密着型介護サービスが13.96%となっています。
介護給付費については、依然として全国的に高い伸び率を示しており、団塊の世代が後期高齢者となる2025年を見据えて、27年4月に行われる介護報酬の改定や、医療と介護の連携の強化など、地域包括ケアシステムの構築に向けた具体的な取り組みが進められています。

介護ひとくち×モ

○高知県高齢者保健福祉計画 第6期介護保険事業計画

高齢者の方々が住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていくためには、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築をめざしていく必要があります。今期の計画では、県民誰もが住み慣れた地域でともに支え合いながら、安心して暮らしていける「高知型福祉」の実現に向けて、2025年度の介護需要等も踏まえ、必要な在宅、施設等の介護サービスを確保するとともに、市町村の地域包括ケアシステムの構築に向けた地域支援事業等の取組への支援や地域包括ケアシステムを支える人材の確保及び資質の向上等を中心として計画の見直しを行い、高齢者の心豊かな人生を支援していくとするものです。

計画期間は、27年度から29年度までの3年間です。
(高知県高齢者福祉課ホームページより抜粋)

介護給付費明細書確定件数の内訳 (高知県)

平成26年10月～12月審査分

| | 26年10月 | | 26年11月 | | 26年12月 | |
|-----------|--------|---------|--------|---------|--------|---------|
| | (件) | 前年同月比 | (件) | 前年同月比 | (件) | 前年同月比 |
| 施設介護サービス | 8,119 | 99.06% | 8,117 | 99.67% | 8,082 | 98.90% |
| 介護予防支援 | 6,789 | 101.49% | 6,820 | 101.73% | 6,886 | 102.03% |
| 居宅介護支援 | 15,935 | 102.48% | 16,155 | 103.13% | 16,012 | 102.54% |
| 地域密着型サービス | 3,735 | 104.36% | 3,736 | 104.62% | 3,769 | 104.52% |
| 居宅介護サービス | 46,107 | 104.41% | 46,704 | 104.61% | 46,659 | 104.56% |
| 合計 | 80,685 | 103.21% | 81,532 | 103.56% | 81,408 | 103.35% |

| | | | |
|-----------------|--------|-------|-------|
| 施設介護サービスが占める割合 | 10.06% | 9.96% | 9.93% |
| 地域密着型サービスが占める割合 | 4.63% | 4.58% | 4.63% |

介護給付費の内訳 (高知県)

平成26年10月～12月審査分

| | 26年10月 | | 26年11月 | | 26年12月 | |
|-----------|---------------|---------|---------------|---------|---------------|---------|
| | (円) | 前年同月比 | (円) | 前年同月比 | (円) | 前年同月比 |
| 施設介護サービス | 2,440,696,943 | 99.85% | 2,513,512,986 | 99.76% | 2,427,035,426 | 99.27% |
| 介護予防支援 | 28,937,420 | 101.88% | 29,083,800 | 102.40% | 29,360,180 | 102.14% |
| 居宅介護支援 | 203,431,903 | 100.00% | 209,203,302 | 102.55% | 208,407,358 | 102.48% |
| 地域密着型サービス | 774,269,996 | 103.76% | 797,567,112 | 103.76% | 783,751,240 | 104.65% |
| 居宅介護サービス | 2,140,233,273 | 105.54% | 2,194,743,823 | 103.22% | 2,085,919,409 | 101.00% |
| 合計 | 5,587,569,535 | 102.52% | 5,744,111,023 | 101.72% | 5,534,473,613 | 100.79% |

| | | | |
|-----------------|--------|--------|--------|
| 施設介護サービスが占める割合 | 43.68% | 43.76% | 43.85% |
| 地域密着型サービスが占める割合 | 13.86% | 13.88% | 14.16% |



孤立させない居場所を作りたい

ポッポ広場が大事にしていることは「利用する親の居場所を作るためにはどうしたらいいか」。行き場がない、子育てにおいて悩みがあるけれどどうすればいいかわからない、といった親にはぜひ足を運んでほしいそうです。

「一緒に子育てをする仲間。子育てをする上で抱える悩みは同じだから、ポッポ広場に遊びに来て、悩みを共有し、元気になって帰ってほしい」。スタッフの方が話してくれました。

土佐町で子育てをする親全員が笑顔で支え合う仲間になるといいですね。

一人で悩まないで、一緒に子育てをする仲間だから

ポッポ広場があったからこそ生まれた命

「子育て支援センターがあったから、2人目の子どもを産むことができました」

ポッポ広場に來ている母親の言葉です。その一言を聞いて、スタッフの方は大変嬉しかったそうです。子どもを自由に連れていける、子育てを助けてくれるポッポ広

場。そんな場所があったからこそ生まれた命ではないでしょうか。

子育ては容易なことではありません。核家族化が進み、良い子育て例を身近に見たり、感じたりすることが少なくなった現代において、子育て支援センターの役割は大きくなっています。



土佐町保健福祉センター



みつば保育園



土佐町立図書館

何でも相談してください



スタッフ 和田さん、稲村さん

土佐町子育て支援センター「ポッポ広場」

電話/0887-82-0483

<http://www.town.tosa.kochi.jp/publics/index/147/> (土佐町役場HP内)

■土佐町保健福祉センター 土佐郡土佐町土居206 月・水・木・金曜日 9:30~15:30

■土佐町立図書館 高知県土佐郡土佐町田井1488-1 火曜日 9:30~11:00

■みつば保育園 土佐町田井1555番地 木曜日 9:30~11:00



親同士が教え合う場所

「おはなし会」のように外部から講師を招くだけでなく、親がそれぞれの得意分野を生かして、講師になることもあるそうです。

子育て講座の一つである「簡単料理教室」では、料理の得意な親が講師となります。料理の企画から材料の準備まで全て親たちが担当し、ポッポ広場は場所のみの提供を行います。

料理教室の他にも、親同士が編み物やミシンの使い方を教え合って、交流を深めています。人から必要とされることで、自分の居場所があると実感できるのではないのでしょうか。

子育てに関するアドバイスも親の間で行われています。「子どもがご飯を食べてくれない」とある母親が相談すると、「大丈夫。お乳飲まなくなったら食べだすから」とすぐに別の母親が答えてくれたそうです。こうした親同士のつながりが、子育てに悩みを抱える親に安心感を与えています。

じゅんばんこね



図書館や保育園と連携

ポッポ広場は、毎週月・水・木・金曜日は土佐町保健福祉センターで、火曜日は町立図書館ホール、木曜日はみつば保育園でも開所し、子育て支援に取り組んでいます。

図書館では、休館日を利用して開所しており、子どもたちは自分の好きな絵本を読んでもらうことができます。みつば保育園では、子どもたちは各年齢に合わせて園の各クラスに入り、園児たちと一緒に遊んで時間を過ごし、保育園を体験することができます。

はむ



居心地がいい場所をめざして



笑顔いっぱい、春のおはなし会

3月25日、ポッポ広場では「春のおはなし会」を開催しました。「高知おはなしの会」から講師を招き、参加した9組の親子が絵本の読み聞かせや手遊びなどを楽しみました。

初めにかわいいクマの人形から握手であいさつされると、少し緊張しながらも小さな手で握り返す子どもたち。手作りのチョウが頭や肩に止まると、自然な笑顔が見られました。その

他、講師の方と一緒にわらべ歌を歌ったり、手袋人形を使った遊びを行ったりと、ポッポ広場には親子の楽しい笑い声が響いていました。

子どもたちが一番喜んでいたのは、歌に合わせて行うベビーマッサージ。お腹をなでられ、手足を揉まれると、子どもたちはくすぐったいのか大笑い。親子で楽しく触れ合う姿は、見ていてほほ笑ましい光景でした。

『私の日課』

大川村総務課
課長補佐 朝倉 理恵

私は、国保の担当となり、事務局から異動になったことまもなく2年を迎えます。正直なところ、このお話をいただいたとき、「コーヒーブレイクって!?そんなページがあった!?」慌てて昨年度からの国保だよりを開きました。国保だよりもゆっくりと目を通す間もない状態で毎日仕事をしています。そんな私が、さて何を書くか、これといった趣味もない……。時間もない……。それでも、慌ただしい日々の中で、一つだけ毎日続けていることがあります。それは、役場周辺に住む子どもたちと学校まで登校に付き合っ

て歩くことです。教育委員会事務局から異動になったことをきっかけに、子どもたちと歩き始めたのです。

大川村に学校は一つしかありません。一つの校舎に小学生と中学生が通う小中一貫校です。小学生と中学生合わせても36人(うち15人は山村留学生)です。そのほとんどがスクールバスで学校に通います。でも、役場周辺に住む5人だけは徒歩通学なので、毎日、スクールバスで通うお友達をうらやましうらやましながら、「バスに乗りたくないなあ」と愚痴もこぼれます。「そういえば私もそうだったなあ!」歩くのが大嫌いだっただけで、その気持ちはよく分

かります。一緒に歩くことで、少しは楽しくなればいいかなと思います。一緒に歩くことを始めましたが、今では、私の楽しみでもありません。

毎日いろんな会話を楽しめます。2学期ごろからは学校の先生方数名も参加してくれるようになりました。夏の日や雨の日等は、「今日はいいかつ」て思うこともありましたが、最近は日課のように役場で子どもたちが来るのを待っています。学校から戻り、役場庁舎の自分の机につき、新聞に目を通し終われば、ちょうど始業の時間です。そして、また一日が……。毎朝この日課が、一日頑張れる



大川村総務課の皆さん
(後列)左から 柳川主事、明坂課長、近藤課長補佐、西村主任、矢野主事
(前列)左から 飯田主事、鈴木主事(保健師)、(筆者)朝倉課長補佐

『スマホで世界を救え!』

梶原町保健福祉支援センター医療保険係
主事 山内 孝信

こんにちは。25年度より国保を担当しております山内と申します。コーヒーブレイクのお話をいただいて、記事について非常に悩みましたが、今回は、誰でも簡単にスマホから参加できるボランティア?活動について紹介したいと思います。

「グリッドコンピューティング」という言葉をご存じでしょうか。これは、複数のコンピュータをつなげ、ネットワーク上に高性能な仮想コンピュータを作り出すという技術で、スーパーコンピュータでないとい処理できないような膨大な計算処理やデータの記録を分散して行う

ものです。

この技術を用いたプロジェクトが多数あり、電源が入っている端末の(持ち主の休憩などで使われていない間の)余剰能力が、医療や環境、宇宙などさまざまな分野の研究に活用されています。

IBMの運営するWorld Community Gridでは、小児がんやエイズの治療法の研究、太陽光パネルの開発などが進められています。最近では、エボラ出血熱の治療研究が行われていて、多くの方の参加が求められています。このようなプロジェクトに「boinc」や「htc power to give」といったスマホの

アプリをインストールすることで、誰でも簡単に参加することが出来ます。

アプリのインストール後は、参加したいプロジェクトを選んでメールアドレス等を登録するのみ。あとはアプリが自動的にネットワークに接続し、処理が開始されます。デバイスが自動的に充電(充電中に)処理が行われますので、普段の利用を阻害することはありませんし、気が付いたら電池切れになっているという心配もありません。

スマホで人類全体に貢献するようなボランティア活動に参加なんて……壮大でロマンがあると思いませんか?

グリッドコンピューティングは、登録機器が多ければ多いほどその処理能力は拡大していきます。皆さんもぜひ参加してみてください。

梶原町保健福祉支援センター介護医療係(※)の皆さん



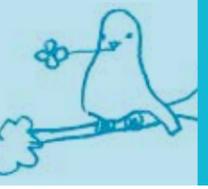
左から 橋田センター長、宮岡主事、西村主事、山下係長、(筆者)山内主事
※27年4月1日より介護医療係は、医療保険係と介護保険係に分かれています。

『輝く笑顔みんなで子育てできるまち』 in 土佐清水市



土佐清水市健康推進課 山本 弘子

小学校での健診・保健指導係メンバー(筆者は前列左)



「輝く笑顔みんなで子育てできるまち」をめざして

土佐清水市で実施している母子保健事業について紹介します。土佐清水市の人口は27年1月末現在で1万5099人、65歳以上が42.9%、26年の出生数は53人です。子どもの数は年々減少しています。『輝く笑顔みんなで子育てできるまち』をめざして事業を展開しています。

新たに「小児生活習慣病予防健診」に取り組む

26年度、本市は新たな事業として「小児生活習慣病予防健診」に取り組みました。これは、小学5年生と中学1年生を対象に生活習慣病予防健診・保健指導を実施し、小児期からの健康的な生活習慣付けと生涯にわたる健康づくりをめざし、家族ぐるみの健康意識の向上を目的としています。

厚生労働省が公表した22年の「市町村別生命表」で、本市の男性の平均寿命が75.6歳、全国ワースト2位となり、これをきっかけにこの事業は開始しました。「健康寿命の延伸」のためには何をすべきか！一つの答えとして、子どももときからの健康の大切さを子ども自身に気付いてもらい、もし何か因子

が見つければそれをどう克服したらいいのか、もちろん家族の支援が重要となりますので、負担にならずに長く続けられる生活改善を一緒に考え行動変容につなげたい、そういう思いでした。

関係機関との意思疎通が重要

この事業で配慮したことは、各関係機関に事業の理解と協力を頂くことでした。土佐清水医師会(清医会)には、医療行政委員会に事業趣旨を説明し、小児血液検査の正常値の確認と健診当日の協力および健診後の要精密・経過観察者への診察・指導等の依頼をしました。校長会(小学校8校・中学校1校)にも事業趣旨を説明し、健診可能な日



26年度、新たに小児生活習慣病予防健診に取り組みました

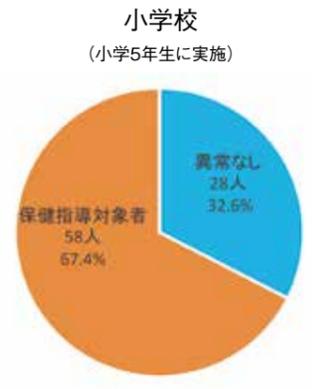
保護者と一緒になって改善策を考える

多くの子どもが健診を受診しましたが、正常値を少しでも外れた保健指導対象者が全体の6割を超えていたことは驚きでした。小学校では、脂質が38.4%、HbA1cが18.6%、肝機能と尿酸値が16.3%、血圧は11.6%。中学校では、尿酸値が31.5%、HbA1cが21.3%、脂質が16.9%、肝機能15.7%、血圧が9.0%の有所見結果が判明しました。

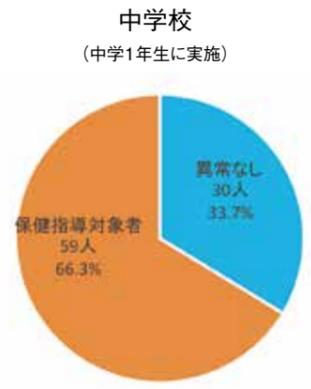
この結果を踏まえ、係で検査結果と健診問診票、保護者へのアンケートを照らし合わせて検討しました。朝食はほとんどの子どもが毎日食べていました。これは安心。1日にテレビを見る時間が3時間以上は小・中合わせて27人、パソコン・ゲームが3時間以上は17人もいました。いったいどんな時間を過ごしているのかな?と、いろいろ考えるきっかけとなりました。2月には、保健指導を各学校・市役所・訪問等で実施し、食生活や生活リズムをどうしたら改善できるのか保護者の皆さんと一緒に考えました。

将来を担う子どもたちの健康に向けて

土佐清水市の将来を担う子どもたちの健康をいかに守っていくか。今後も関係機関と協力しながらこの事業を実施していきます。26年度に初めてこの事業を行いました。27年度はさらに充実した事業となるよう頑張っていきます。最後にりましたが、この事業を開



対象者94人のうち86人(91.4%)が受診した結果



対象者103人のうち89人(86.4%)が受診した結果



有所見率は受診者86人に対する割合



有所見率は受診者89人に対する割合



以布利のジンベエザメ



土佐清水市公認の宗田節PRキャラクター、宗田ぶっしー君



足摺岬の先端に立つ足摺岬灯台

手軽でおいしい、さっぱりスムージー

イチゴとトマトのスムージー

トマトとヨーグルトの酸味がイチゴの甘さが引き立つさっぱりとしたスムージーです。あらかじめ凍らせていたイチゴとトマトをミキサーにかけるだけで簡単にできる一品です。

◎材料(1人分)

- イチゴ(冷凍) …… 30g
- トマト(冷凍) …… 80g
- A
- 豆乳 …… 40ml
- プレーンヨーグルト …… 40ml
- グラニュー糖 …… 大さじ1/2

◎作り方

- イチゴはへたを取って冷凍しておく。
- トマトは2cm角に切り冷凍しておく。
- ミキサーに①、②とAを入れ滑らかになるまでかき混ぜる。
- グラスに③を入れ、上にイチゴとトマトを飾る。

1人分

エネルギー 110kcal

◎メモ

- フルーツマトやミニトマトを使用すると、甘みが増してさらにおいしくなります。
- 豆乳を牛乳に、グラニュー糖を蜂蜜に変えたりしてもいいですね。



ブラジル生まれのチーズパン

もちもちポンデケージョ

ポンデケージョはブラジルで生まれたパンで、ポルトガル語で「チーズパン」という意味です。名前の示すとおり、食べるとチーズの風味が口の中に広がります。ホットケーキミックスを使用するので生地を発酵させる必要がなく、お手軽にできる料理です。

◎材料(2人分)

- ホットケーキミックス …… 150g
- 白玉粉 …… 75g
- 牛乳 …… 100ml
- チーズ(ピザ用) …… 150g
- 小麦粉 …… 適宜

◎作り方

- ボールに白玉粉と牛乳を入れてよく混ぜる。
 - ①にホットケーキミックスとチーズを入れ粉っぽさが無くなるまで混ぜ、生地をまとめる。
 - ②を15等分に分け、小麦粉をまぶして丸める。
 - オーブントースターを予熱し、アルミホイルを敷いた上に③を並べ2~3分焼く。さらに上にもアルミホイルをかぶせ10~12分焼く。
- ※オープンの場合は180度で12分

◎メモ

- 生地に刻んだベーコンやハム、黒ゴマを入れるのもいいですね。
- もちもち感の決め手は白玉粉です。

1個分

エネルギー 102kcal

果物の効果

- 果物を朝食べると？
寝ている間に失われたブドウ糖が効率よく取れるため、気持ちのいいスタートを送ることができます。
- 運動した後食べると？
エネルギーを素早く補給。酸味成分であるクエン酸は疲労回復効果があります。
- たくさん食べると太る？
100gあたりのカロリーは高くありません。しかし食べ過ぎるとカロリーの摂取が多くなり、素早くエネルギーが取れることからコレステロールや中性脂肪が増える原因にもなります。1日200gが目標準です。適量を食べることで果物の栄養素を取り入れましょう。



管理栄養士
にしちりみえ
西森美恵

管理栄養士であり、「高知県在宅保健活動者なでこの会」副会長をはじめ、食育を考える地域活動栄養士の会「トマトの会」代表などを務める。食育を通じて、おいしく健康的な食生活の実践をめざし、地域に密着した栄養相談・料理講習会・講話などの活動を行っている。

| | |
|-------|-------------------|
| 温州ミカン | 2個 |
| ナシ | 1個 |
| ブドウ | 1房(デラウェアなどの小粒は2房) |
| モモ | 2個 |
| バナナ | 2本 |
| キウイ | 2個 |

果物 200gの目安(大きさによりますが、標準を示しています)



◎平成23年高知県県民健康・栄養調査報告書
年齢階級別食品摂取状況(果物摂取目標は1日200g)野菜の摂取目標は1日350g

- ビタミンC: 抗酸化作用、肌ハリをもたせ、風邪やがんを予防する。
- ビタミンA: 目と粘膜のビタミン、がん予防効果も。
- カリウム: 高血圧症を予防、ナトリウムによる血圧上昇を抑制する。
- 食物繊維: 便秘解消から、がん予防まで様々な効果がある。
- 果糖、ブドウ糖: 疲労回復、脳の活性化

果物の栄養素

高知県の果物といえば新高ナシ、小夏、ブタンシ、ユズ、イチゴ、ビワ、メロンなどいろいろあります。スーパーなど量販店の果物コーナーでは、さまざまな季節の果物が並んでおり高知県は果物が豊富な県でもあります。

みなさん、毎日果物食べていますか？

1日に食べてほしい量は200gが目標準です。高知県県民健康・栄養調査報告書によると、20~30代を筆頭に他の各年代も目標量に達していません。高知県のおいしい果物で、毎日の食卓を豊かにしましょう！

果物 食べていますか？

バナナを包むやさしい味わい

バナナロール

生地のもつ柔らかさが、バナナの甘みをやさしく包み込みます。飾りのクリームと一緒に食べるとさらに味わいが広がります。少し時間をおいて生地をしっとりさせると、違った口当たりが楽しめます。

◎材料(2人分)

- バナナ …… 2本
- 油 …… 適宜
- 生クリーム …… 適宜
- ミント
- A
- ホットケーキミックス …… 50g
- 卵 …… 1/2個
- 牛乳 …… 大さじ4

1人分

エネルギー 230kcal

◎作り方

- バナナは卵焼き器に合わせた長さに切る。
- ボールにAの材料を入れ、泡だて器で混ぜておく。
- 卵焼き器に油をひき、②を半分入れ弱火で焼く。
- 生地にツツツと穴が開いてきたら、バナナを端に入れフライ返しでぐるぐる巻く。巻き終わりを下にし、生地が離れないように焼く。
- バナナロールの横にミントと生クリームを飾る。

◎メモ

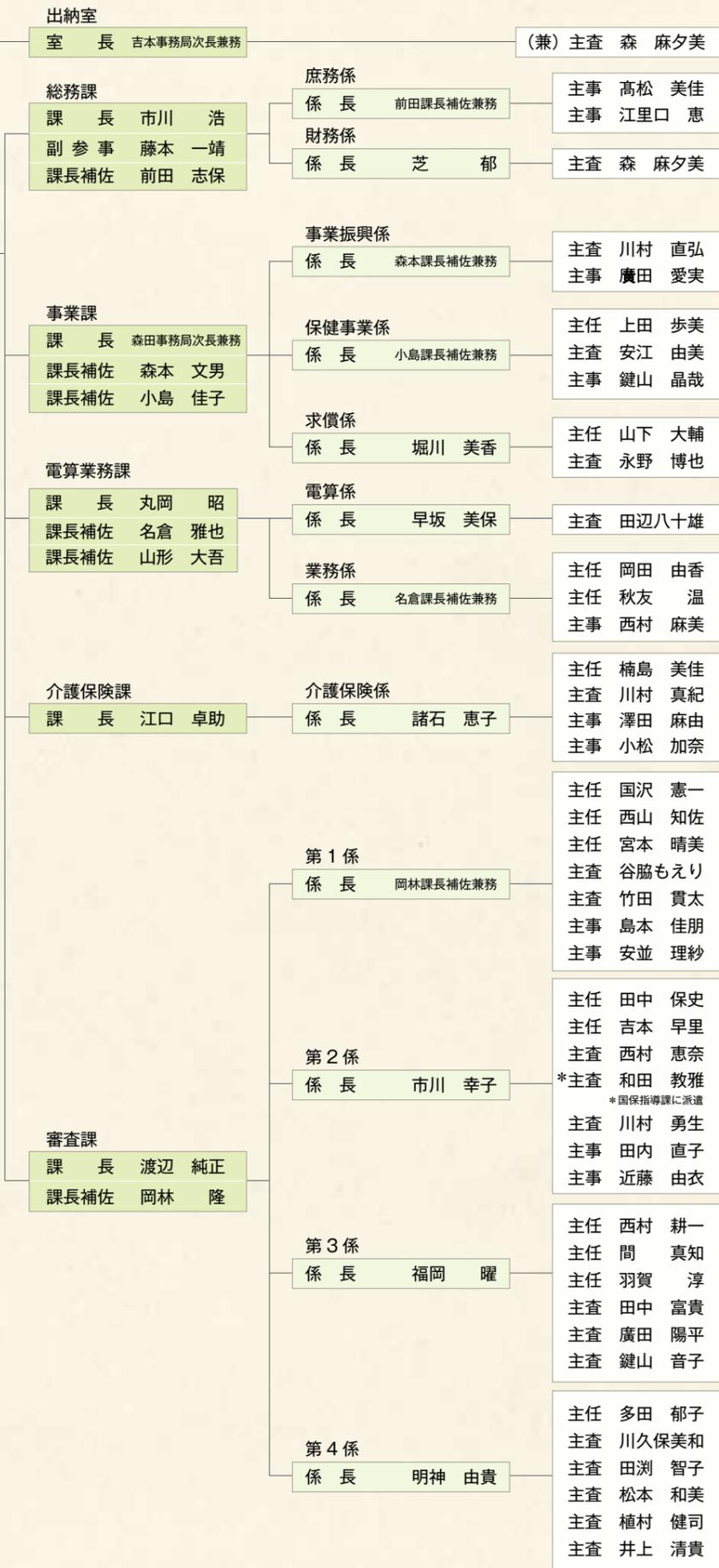
- バナナの他に、カットしたいちごやその他のフルーツを加えるとアレンジが楽しめます。
- 生地にチョコやココアパウダーを混ぜてもいいですね。



常務理事
大野 政彦

事務局長
大藤 幸一

事務局次長
吉本 明生
森田 益教



●「電算管理課」と「業務課」を統合することで「電算業務課」とし、「電算係」と「業務係」の2係体制に
今後とも、各種システムの円滑な導入・稼働に全力
で取り組むとともに、保険者事務の軽減・効率化等
を推進していきます。

●「電算管理課」と「業務課」を統合することで「電算業務課」とし、「電算係」と「業務係」の2係体制に
今後とも、各種システムの円滑な導入・稼働に全力
で取り組むとともに、保険者事務の軽減・効率化等
を推進していきます。

●「電算管理課」と「業務課」を統合することで「電算業務課」とし、「電算係」と「業務係」の2係体制に
今後とも、各種システムの円滑な導入・稼働に全力
で取り組むとともに、保険者事務の軽減・効率化等
を推進していきます。

| | |
|------------------------|------------------------------|
| 審査業務専門医(嘱託) | 西山 瑩 |
| 保健師(嘱託) | 楠瀬 美枝 山村 雅子 平成27年5月1日～ |
| 損害賠償請求事務専門員(嘱託) | 吉田 寛助 |
| レセプト点検専門員(嘱託) | 山崎 知 笹木 彩代 |
| 介護事業専門員(嘱託) | 川崎 早苗 |
| 介護サービス苦情処理委員 | 山下 訓生 松生 由美 |
| 介護サービス苦情処理調査員 | 森田 早苗 |
| 業務専門事務職員(嘱託) | 森澤 由香 森岡 千賀 |
| 結核・精神対象 レセプト抽出等嘱託職員 | 安岡 満喜 森野 晃代 |
| 後期高齢者医療レセプト点検 | 氏原 円 |
| | 小川 三千 |
| | 上村 陽子 |
| | 高橋 忍 |
| | 藤原 長子 |
| | 濱崎 澄子 |
| | 松崎 けい |
| | 村田 耕子 横川 加代 |



保険者での国保データベースシステムを活用した 生活習慣病対策支援モデル事業

本会では医療費適正化のため、診療報酬の審査支払業務とともに、保険者の保健事業支援業務を実施してきたところであるが、26年度はレセプト・健診情報等データを活用した効果的な保健事業の推進を図ることとし、25年度に全国の国保連合会で導入が開始された国保データベースシステム(以下KDBシステム)の活用による保険者支援を開始した。

本モデル事業の共同実施に当たっては、国保被保険者数が多くデータ量が豊富であり、特定健康診査・特定保健指導の受診率や終了率の向上対策としては本県の国保被保険者の中では唯一都市型の取り組みをしている高知市にモデル保険者として、また、循環器疾患や糖尿病等生活習慣病対策の研究者である国立保健医療科学院生涯健康研究部長横山徹爾氏にアドバイザーとして、それぞれ合意を得て、スタートを切った。

4月24日、高知市・本会合同説明会を実施し、健康課題の明確化、課題解消の具体策の検討、対策実施の優先順位付けについて、順に取り組むこととした。

高知市の健康課題は何か。これについては、介護保険給付費増が著しいが要介護に至る原因疾患に傾向はあるのか、新規要介護認定者の増は何が原因か、医療費に健診受診は影響しているか、疾病に影響している市民の特徴的な生活習慣があるのか、年齢や性別で健康課題に違いはあるのか、など日ごろ担当保健師が保健指導の現場などで感じている疑問を元に、多様なデータをもちて分析。データはあらゆる部署にたくさん存在するが、どこにどんなデータが存在するのか、データの結びつけや比較の手法の検討、傾向の発見に相当の時間を費やすこととなった。横山部長、高知市担当者の熱意のもと、担当者打合せ6回、

モデル事業を実施し、データ分析には保険者の国保担当者や衛生担当者での共同実施が効果的であること、保険者の保健事業の利点は要医療者や健診情報によって実施効果の判定が可能であり計画策定時から成果指標の意識が必要であること、保険者の保健事業は多種多様であること、などを本会としても実感し、今後の保険者支援を充実するための貴重な事業となった。

27年度は、計画に基づいた保健事業の実践とその評価についてKDBシステム等データを用いた保健事業支援を継続することとし、高知市の協力を得た。本モデル事業の詳細については、他の保険者の取り組みの参考とするため研修会等で報告していくこととしている。

| 室・課 | 係 | 主な事務 |
|-----|---------------------------|--|
| 出納室 | TEL 088-820-8419 | ●現金及び有価証券等の出納及び保管 |
| 総務課 | 庶務係 TEL 088-820-8401 | ●会務の総合調整 ●総会、理事会及び監事会 ●許可、届出、契約及び登記 ●規約、規則、細則及び規程 ●人事及び給与 ●国保制度の改善強化対策 ●機関誌「TOSA 国保だより」の編集、発行 ●国保新聞に関すること ●ホームページに関すること ●その他の室・課に属さないこと |
| | 財務係 TEL 088-820-8401 | ●財政計画及び予算の編成執行 ●負担金及び手数料その他徴収金の賦課徴収 ●物品の調達、貸借、検収及び不要品の売却 ●連合会補助金及び貸付金の申請及び請求 ●保険者に対する融資 |
| 事業課 | 事業振興係 TEL 088-820-8415 | ●事業の企画 ●高知県国民健康保険事務担当職員協議会事務局 ●高知県国保地域医療推進協議会事務局 ●全国国民健康保険診療施設協議会に関すること ●地域医療推進共同事業 ●国保財政診断事業 ●保険料（税）適正算定マニュアルに関すること ●保険財政共同安定化事業・高額医療費共同事業 ●用紙等の共同印刷、書籍等の購入斡旋 ●健康測定機器、健康教育教材の貸し出し ●調査、情報の収集及び分析・提供、保存 |
| | 保健事業係 TEL 088-820-8420 | ●保健事業に関すること ●市町村保健師研修等に関すること ●市町村保健衛生職員協議会保健師部会に関すること ●高知県在宅保健活動者なでしこの会事務局 ●国保・後期高齢者ヘルスサポート事業に関すること ●高知県保険者協議会事務局 ●特定健康診査・特定保健指導に関すること ●国保データベースシステム（KDB）に関すること |
| | 求償係 TEL 088-820-8421 | ●第三者行為求償事務 |

| 室・課 | 係 | 主な事務 |
|-------|---|---|
| 電算業務課 | 電算係 TEL 088-820-8403 | ●被保険者資格の電子記録 ●被保険者の資格及び給付に係る電子記録のプログラムの開発、修正及び管理 ●被保険者の資格及び給付に係る事務の共同処理外電子記録 ●情報ネットワークシステムの開発推進及び関連機器の維持管理 ●保険者事務共同電算処理に対応するシステムに関すること ●後期高齢者医療広域連合の電算業務支援 ●資格喪失後受診における保険者間調整事務の代行 |
| | 業務係 TEL 088-820-8407 | ●保険者等の過誤調整に関すること ●訪問看護等療養費に関すること ●柔道整復師の施術に関すること ●支払事務 ●公費負担医療に関すること ●福祉医療等に関すること ●出産育児一時金等の医療機関等への支払等に係る業務 |
| 介護保険課 | 介護保険係 TEL 088-820-8409 (苦情) TEL 088-820-8410 TEL 088-820-8411 | ●介護給付費及び介護予防・日常生活総合支援事業費の審査・支払、過誤調整、再審査、全国決済 ●介護サービス事業者等に対する調査、助言及び指導 ●介護保険者事務の共同処理 ●介護給付費審査委員会に関すること ●介護サービス苦情処理委員会に関すること ●高額医療介護（介護予防）サービス費の支給計算 ●障害介護給付費の支払及び過誤調整、全国決済 ●障害者総合支援市町村事務の共同処理 ●保険料（税）の年金からの特別徴収における経由機関連業務 |
| 審査課 | 第1係 TEL 088-820-8404 | ●高点レセプト及び歯科レセプトの審査・支払事務 ●審査専門部会・歯科部会運営 【支払に関する担当保険者】 室戸市、安芸市、南国市、土佐市、香南市、香美市、安芸郡、土佐郡、長岡郡内の保険者 |
| | 第2係 TEL 088-820-8405 | ●医科レセプトの審査・支払事務 ●診療報酬審査委員会に関すること 【支払に関する担当保険者】 高知市、医師国保 |
| | 第3係 TEL 088-820-8406 | ●医科レセプトの審査・支払事務 ●県外分診療報酬全国決済に関すること 【支払に関する担当保険者】 須崎市、土佐清水市、宿毛市、四万十市、吾川郡、高岡郡、幡多郡内の保険者 |
| | 第4係 TEL 088-820-8402 | ●医科及び調剤レセプトの審査・支払事務 ●保険者及び保険医療機関等の再審査事務 ●再審査部会運営 ●レセプト点検共同事業に関すること |

平成 27 年度 国保連合会各室課事業年間予定表

| 室・課 | 出納室・総務課 | 審査課 | 電算業務課 | 介護保険課 |
|-----|--|-----------------|----------------------------------|------------------------------|
| 4月 | ○保険者負担金賦課徴収 ○役職理事会（必要に応じて） ○国保新聞に関する業務（毎月） ○TOSA 国保だより 322号発行 | | ○国保基準給付費基礎調査票作成 | |
| 5月 | | | | |
| 6月 | | | ○療給実績報告基礎資料作成 | ○介護保険初任者研修会 ○ケアプラン分析研修会 |
| 7月 | ○監事会・理事会・通常総会 ○広報委員会 ○TOSA 国保だより 323号発行 | | ○電算共同処理運営委員会 ○年齢階層別の疾病分類リスト作成 | |
| 8月 | | | ○年間無受診世帯および被保険者名簿作成 | |
| 9月 | | | | ○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（前期分） |
| 10月 | ○TOSA 国保だより 324号発行 | | ○9月末現在年齢階層別・男女別被保険者数調べ作成 | |
| 11月 | ○国保制度改善強化全国大会（東京都） | | ○年齢階層別の疾病分類リスト作成 | |
| 12月 | ○理事会 ○役職理事会（必要に応じて） | ○レセプト点検・調査事務研修会 | | |
| 1月 | ○広報委員会 ○TOSA 国保だより 325号発行 | | ○療給実績報告基礎資料（基礎表Y）作成 | |
| 2月 | ○国保功労者表彰 ○監事会・理事会・通常総会 ○退職者医療共同事業負担金調定 | | ○電算共同処理運営委員会 | ○保険料の年金からの特別徴収業務手数料賦課徴収（後期分） |
| 3月 | | | ○被保険者証作成（国保・退職） | |

| 事業課 | 国保事務担当職員協議会 | 国保地域医療推進協議会 |
|---|-------------------------|--|
| ○下半期共同幹旋物等代金請求（10月～3月分） ○3月分求償事務手数料請求 ○地域医療推進負担金賦課徴収 ○求償権確認調査および求償金滞納処理（毎月） ※高額医療費共同事業・保険財政共同安定化事業については、交付申請締切り・拠出金納付が毎月20日、交付金交付が毎月23日です。 ※求償金は収納月の翌月10日頃に該当保険者へ通知および送金します。 | ○各支部総会（支部単位で開催） | |
| ○高知県都市国保主管課長・係長研究協議会 ○四国地区都市国保主管課長および国保保険者国保事務担当者研修協議会（香川県） ○特定健診等国庫負担（補助）金の実績報告に関する説明会・特定健診等事務担当職員新任者研修会 ○都道府県および市町村国保主管課職員研修 [1班] [2班]（東京都） ○国保事務担当職員新任者研修会 | ○監事会・理事会・総会 | ○監事会・理事会・総会 ○地域医療現地研究会（宮崎県） |
| ○全国国民健康保険診療施設協議会会費賦課徴収 ○ヘルスアップ推進員研修会 ○保険事業支援・評価委員会 ○高知県在宅保健活動者なでしこの会総会・研修会 | | |
| ○保険者協議会 ○特定健診・特定保健指導手数料請求 ○第三者行為求償事務研修会（支部単位で開催7月～10月） ○保険者協議会研修会 | ○支部長会 ○国保事業経営等研究専門部会 | ○国保診療施設四国ブロック会・四国合同国保歯科診療施設研修会（徳島県） ○部会長・副部会長 |
| ○第32回「健康なまちづくり」シンポジウム（東京都） ○全国市町村国保主管課長研究協議会（東京都） ○保険事業支援・評価委員会 ○保険者協議会専門部会 ○高知県在宅保健活動者なでしこの会「なでしこだより」第30号発行 | ○各支部研修会（支部単位で開催） | |
| | | ○医師部会・技術者部会・看護部会合同研修会（仁淀川町） |
| ○上半期共同幹旋物等代金請求（4月～9月分） ○上半期求償事務手数料請求 ○医療費分析研修会 | | ○第55回国保地域医療学会（埼玉県） |
| ○国保被保険者健康づくり推進月間 ○保険者協議会専門部会 | ○理事会 | ○部会長・副部会長 |
| ○新年度使用の共同印刷物受注 ○保険事業支援・評価委員会 ○特定健診・特定保健指導集合契約に関する説明会 | | |
| ○被保険者証更新ポスター配布 ○保険者協議会 | ○支部長会 ○国保事業経営等研究専門部会 | ○第29回高知県国保地域医療学会 |
| ○下半期求償事務手数料請求 ○疾病分類等冊子発行 ○保険事業支援・評価委員会 ○高知県在宅保健活動者なでしこの会「なでしこだより」第31号発行 | | ○部会長・副部会長 |

※日程調整中 ○国保事務担当職員研修会 ○国保運営協議会委員研修会 ○国保保健賞表彰



●家の庭に咲いていた花を撮ってみました。ちなみに名前は不明ですが、どんどん増殖していることから考えると、ハーブ系でしょうか。連日の雨にも負けず咲いていて、中にはコンクリートを突き破って咲いている花もあります。この小さい花のどこにそんな生命力があるのかと思いますが、頑張って咲いている姿を見ると元気をもらえますね。

●4月から広報の担当になりました。慣れない原稿作成や編集作業に悪戦苦闘しながら、ようやく発行することができました。初めての経験で多少の不安はありますが、広報業務を通じてこれからどんな出会いがあるのか楽しみです。伝えたいことだけを伝えて自己満足に終わらないように、多くの人に読んでもらえる広報誌を作っていきますので、よろしくお願いいたします。(江)

編集後記

322号の取材・寄稿にご協力くださいました皆さん
ありがとうございました。



TOSA 国保だより

2015年4月発行 322号

■発行者
高知県国民健康保険団体連合会
高知市丸ノ内2丁目6-5 TEL 088-820-8415
http://www.kochi-kokuhoren.or.jp
E-mail koho@kochi-kokuhoren.or.jp

■印刷
株式会社リーブル 高知市神田 2126-1
TEL 088-837-1250 http://www.livre.jp

次号予告

よさこい祭り発祥の中心都市

「高知市」

今回は高知市を訪ね、これからのまちづくりについて、岡崎誠也市長にお話を伺います。

TOSA 国保だより 323号
7月下旬発行予定

連合会日誌

2015年1月1日～3月31日

| 1月 | 2月 | 3月 |
|--|--|--|
| 9日 新しい総合事業のイメージと移行プロセス～地域包括ケアへの挑戦～出席(広島県) | 2日 第8回高知診療報酬適正化連絡協議会出席(高知市) | 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(須崎市) |
| 高知県在宅保健活動者なでしこの会会報「なでしこだより」第12回編集委員会開催(高知市) | 独立監査人による平成26年各会計の経理に係る監査(高知市) | 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(四万十市) |
| 14日 高知県在宅保健活動者なでしこの会お友達づくり支援事業実施(宿毛市) | 高知県在宅保健活動者なでしこの会第60回役員会開催(高知市) | 27日 平成26年度2月通常総会開催(高知市) |
| 15日 高知県在宅保健活動者なでしこの会第30回研修会開催(高知市) | 高知県高齢者福祉課による指導監査同行(香南市・香美市) | TOSA国保だより第321号発行 |
| 19日 全国国保連合会事務局長・会計担当課長合同会議出席(東京都) | 3日～4日 平成26年度全国国保運営協議会会長等連絡協議会出席(東京都) | 28日 第28回高知県国保地域医療学会開催(高知市) |
| 20日 平成26年度四国地区国保連合会役員協議会出席(愛媛県) | 5日 「国保連合会保健事業支援・評価委員会」委員による報告会出席(東京都) | |
| 21日 第40回国保連合会広報委員会開催(高知市) | 6日 特定健診等データ管理システム担当者説明会出席(東京都) | |
| 23日～24日 平成26年度地域包括医療・ケア研修会出席(東京都) | 平成26年度第2回監事会開催(高知市) | |
| 26日 平成27年度予算説明会出席(東京都) | 7日 心の健康フェスタinこうち2015出席(高知市) | |
| 平成26年度保険者支援保健事業支援「保険者での国保データベース(KDB)システムを活用した生活習慣病対策支援モデル事業」検討会開催(高知市) | 9日 国保中央会システム委員会・幹事会合同会議出席(東京都) | |
| 高知県高齢者福祉課による指導監査同行(大川村・本山町) | 12日 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(佐川町) | |
| 障がい者総合支援業務に係る保険者支援(大川村・本山町) | 16日 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(安芸市) | |
| 28日 平成26年度中央西ブロック保健師研修会出席(佐川町) | 17日 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(香南市) | |
| 28日～29日 独立監査人による平成26年各会計の経理に係る監査(高知市) | 平成26年度3回理事会開催(高知市) | |
| 29日 次期国保総合システム担当者説明会出席(東京都) | 18日 高知県による平成26年度国民健康保険事業に関する指導監査(高知市) | |
| 第1回保健事業支援・評価委員会開催(高知市) | 20日 第2回保健事業支援・評価委員会開催(高知市) | |
| 30日 都道府県在宅保健師等会全国連絡会出席(東京都) | 23日 高知県国民健康保険事務担当職員協議会第20回支部長会開催(高知市) | |
| | 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(土佐町) | |
| | 24日 平成27年度特定健康診査等受診券の発行に関するヒアリング開催(高知市) | |
| | 25日 次期国保総合システム担当者説明会出席(東京都) | |
| | 高知県国民健康保険事務担当職員協議会第59回国保事業経営等研究専門部会開催(高知市) | |
| | | 2日 地方協議会会長県国保連合会常勤役員・事務局長合同会議出席(東京都) |
| | | 第11回基金・国保審査差異解消のための打ち合わせ会出席(高知市) |
| | | 4日 国保中央会システム委員会・幹事会出席(東京都) |
| | | 5日 全国国保連合会常勤役員・事務局長合同会議出席(東京都) |
| | | 高知県保険者協議会第17回調査研究部会・第16回保健活動部会開催(高知市) |
| | | 6日 介護保険審査支払システム担当者説明会出席(東京都) |
| | | 7日 総合事業に係る事業所説明会出席(土佐市) |
| | | 9日 高知県慢性腎臓病(CKD)対策連絡協議会出席(高知市) |
| | | 国保直営診療所等勤務医師訪問(須崎市・梶原町・津野町) |
| | | 10日 国保直営診療所等勤務医師訪問(四万十市・大月町・三原村・黒潮町) |
| | | 11日 介護報酬改定に係る事業所説明会出席(高知市) |
| | | 国保直営診療所等勤務医師訪問(いの町・仁淀川町・佐川町) |
| | | 12日 国保直営診療所等勤務医師訪問(四万十市・四万十町) |
| | | 12日～13日 ジェネリック医薬品差額通知委託業者監査および業務のサービスに関する協議実施(広島県) |
| | | 13日 障がい者総合支援給付審査支払システムに関する合同担当者説明会出席(東京都) |
| | | 16日 国保直営診療所等勤務医師訪問(本山町・いの町) |
| | | 17日 国保データベース(KDB)担当課長会議出席(東京都) |
| | | 平成26年度特定保健指導実施機関従事者研修会・意見交換会出席(高知市) |
| | | 国保直営診療所等勤務医師訪問(馬路村) |
| | | 18日 国保中央会定期理事会出席(東京都) |
| | | 歯と口の健康づくり推進協議会出席(高知市) |
| | | 総合事業に係る事業所説明会出席(土佐市) |
| | | 高知県国保地域医療推進協議会第53回部会長・副部会長会議開催(高知市) |
| | | 国保直営診療所等勤務医師訪問(須崎市) |
| | | 20日 平成26年度保険者支援保健事業支援「保険者での国保データベース(KDB)システムを活用した生活習慣病対策支援モデル事業」報告会開催(高知市) |
| | | 23日 国保中央会定期総会出席(東京都) |
| | | 国保中央会臨時理事会出席(東京都) |
| | | 全国国保連合会常勤役員・事務局長合同会議出席(東京都) |
| | | 総合事業に係る事業所説明会出席(土佐清水市) |
| | | 高知県在宅保健活動者なでしこの会会長打ち合わせ会開催(高知市) |
| | | 24日 第64回保険者等事務電子計算共同処理運営委員会開催(高知市) |
| | | 25日 高知県在宅保健活動者なでしこの会幅多地区情報連絡会出席(四万十市) |
| | | 26日 障がい者総合支援市町村説明会出席(高知市) |



Cover's Story

環境との 調和を大切にした公園

ゴーカート場、アスレチック、野外ステージなど多くのレクリエーション施設が整備されており、敷地内につくられた四万十文化会館は503席の客席を擁するメインホールがあり、講演・コンサート・演劇など幅広い利用が可能となっています。26年11月3日、緑林公園で開催した「第10回米こめフェスタ」では、町出身のシェフが作る限定料理コーナー、仁井田米おにぎり無料コーナー、四万十まるごと鍋コーナーなどが設けられ、四万十町のおいしいものが大集合しました。



四
万
十
緑
林
公
園

